

# 車体 NEWS

## SUMMER 2020 夏

JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.



レッカー車  
(詳細はP.49を参照)

### CONTENTS

巻頭言 ..... 2

#### NEWS特集

2020年度通常総会開催 ..... 3

2020年度理事・監事 ..... 6

退任/新任 理事及び車体工業会功労者等 ..... 7

2020年度事業計画 ..... 9

#### NEWS FLASH

本部だより .....20

部会だより .....21

支部だより .....21

官公庁だより .....22

月度活動状況 .....29

会員情報 .....31

#### Net Work

vol.99 (株)メイダイ .....33

#### VOICE

難燃性試験実態調査委員会のご紹介 ..... 35

そこが知りたい

第45回 「オフィスの動向」は? ..... 37

働くクルマたち

第29回 「トレーラ日常点検について」 ..... 39

Coffee Break

いどばた会議 ..... 41

第2回 「私の生き生き健康ライフ ～運動編～」 ..... 43

我が社の元気人

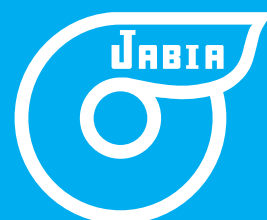
..... 45

#### DATA FLASH

2019年度 会員生産状況概要 ..... 46

編集後記

..... 49



# NV200

## VANETTE

たっぷり遊ぼう、ゆったり泊まろう。

## NV200バネット マルチベッドワゴン



# 日産車体株式会社

[www.nissan-shatai.co.jp](http://www.nissan-shatai.co.jp)

〒254-8610  
神奈川県平塚市堤町2番1号  
電話：0463(21)8001

## 2020年通常総会挨拶

会長 木村 昌平  
日産車体(株)・取締役社長



この度の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関しまして、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈り申し上げるとともに、治療を受けておられる方の早期のご回復をお祈り申し上げます。また、医療従事関係者の皆様をはじめ、各分野で新型コロナウイルス感染症対策に取り組まれている皆様に心からお礼申し上げます。

昨年度の商用車市場は、自然災害に伴う受注の減少、消費税率引き上げに伴う反動減に加え、年度末には新型コロナウイルス感染症の拡大による影響で441千台、前年度比97.9%と2年ぶりに前年度を下回りました。

そうした中、当会会員の生産台数は年度合計で2,304千台、前年度比98.7%と2年ぶりに前年度を下回りました。なお、当会特有の非量産車の合計は183千台、前年度比97.7%と僅かではありますが、2年連続で前年度を下回りました。

新型コロナウイルス感染症による影響は、年度末から現在に至る会員様からは自社の状況を踏まえ、本年度後半に向け、不安や懸念の声もお伺いしております。これまでもお話しさせていただいておりますが、私共はリーマンショック後の厳しい状況下におきましても会員間で連携し、難局を乗り越えてまいりました。これまでとは全く異なる環境下ではございますが、自社でのお取り組み、そして会員様相互の連携をさらに強化し、対応していただくようお願いいたします。

当会では、重点活動項目として、「安全対応活動の推進」、「環境対応自主取組みの推進」そして「中小企業経営支援の充実」の3項目に取り組んできておりますが、それぞれ「会員メリットに直結する事業」を優先に取り組み、会員の皆様のご支援、ご協力のもと成果をあげることができたと判断しております。

さて、本年度の商用車需要は、新型コロナウイルス感染症の状況が見通せていないことから、需要の下振れが想定されます。また、長期的には社会環境変化に伴う国内輸送量の減少が考えております。

この様な中、当会では将来を見据えた活動も推進しており、更なる充実、強化を図ってまいりますので、引き続き当会活動へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

今後も当会は会員の皆様のメリットに直結し、皆様のお役に立てていただける事業、特に要望の強い技術的支援活動につきましては、これまで同様、迅速かつ適切に取り組んでいきたいと考えております。また、人材育成や生産性向上に繋がる支援策の強化も図ってまいりたいと考えております。

なお、新型コロナウイルス感染症対応といたしましては、自動車業界として連携した支援策への取組み、そして当会といたしましても今後の環境変化に対し臨機応変な取組みを図ってまいりたいと考えておりますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

# 2020年度 通常総会開催

## NEWS 特集



木村会長の挨拶はカメラに向けて

当工業会の2020年度通常総会は、5月22日15時30分から、本部会議室においてWEB会議にて開催された。

総会の概要は次のとおり。

### ◆出席者数

正会員 56社(60名) 委任状による出席141社

準会員 24社(24名)

支部含め計87名

### 1. 開会

初めに木村会長が挨拶。続いて事務局より委任状を含めた出席者数が197社で、本総会が適法に成立する旨、報告された。

### 2. 議事

第1号議案 2019年度事業報告の件

第2号議案 2019年度収支決算報告の件

第3号議案 2020年度事業計画案の件

第4号議案 2020年度収支予算案の件

第5号議案 2020年度理事選任の件

以上の議案について事務局より説明が行われ、審議の結果すべての議案が承認された。また、第5号議案の選任後、新任理事4名の紹介があった。

なお、例年ご臨席いただき、ご挨拶いただいている経済産業省、国土交通省からは、それぞれ経済産業省製造産業局自動車課河野課長、国土交通省自動車局審査・リコール課久保田課長から祝辞を頂戴いたしましたので、来賓挨拶としてご紹介させていただきます。



WEB会議による総会は初の試み



新任理事の方々からも  
リモートで挨拶をいただいた



カメラ2台、モニタ、プロジェクタ等の  
機材を準備



ホストとなるPCに多くの負荷がかかり、  
一時中断するトラブルも起きた



## 来賓挨拶



経済産業省  
製造産業局 自動車課 課長  
**河野 太志 氏**

経済産業省自動車課の河野でございます。本日は、日本自動車車体工業会の通常総会が無事執り行われましたことに、心より、お慶び申し上げます。

今般の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大に伴い、世界経済の不透明感が強くなっています。例えば、4月14日に発表されたIMFの経済見通しは、2020年の世界経済の成長率を▲3.0%とし、大恐慌以来の経済悪化の可能性を指摘しています。国内においても、新型コロナウイルス感染症の経済活動への影響が出つつあり、経済・社会活動を支える「働くクルマ」についても、2019年度の生産台数が2年ぶりに前年度を下回るなど、注視が必要な状況です。

こういった状況の中、貴団体をはじめ自動車工業4団体におかれましては、4月10日に、医療・衛生関連製品の製造や雇用維持に対する貢献を発表されました。あらためて感謝申し上げます。政府としては、感染拡大の防止や事態の早期収束に向け努力するとともに、雇用の維持や事業の継続等に万全を期すべく全力で取り組んでまいります。

4月30日には、感染拡大防止策の充実や雇用維持などを柱とする令和2年度第1次補正予算が成立しました。具体的には、最大200万円の持続化給付金、資金繰り支援に加え、雇用調整助成金の特例措置の拡大などを講じています。さらに、社会経済活動と感染症拡大防止の両立に向け、①雇用調整助成金の抜本的拡充②家賃軽減③学生支援④医療体制の整備⑤政策金融の更なる強化といった柱の第2次補正予算案の編成を進めています。

また、中長期的な視点に立つと、「100年に一度」とも言われる「CASE」の変化を、自動車産業の将来の飛躍につなげていく必要があります。特に、「働くクルマ」は、乗用車よりも稼働時間が長く、CASE技術による車両の進化の効果がより期待できます。

経済産業省では、3月31日に、2030年以降のモビリティ社会のあるべき姿とその実現のための方策を議論する場として、「2030年モビリティビジョン検討会」を立ち上げました。「働くクルマ」の特徴もしっかりと踏まえながら、どのような政策や制度が必要なのかを検討していきます。

また、4月20日には、物流分野における人手不足や環境対応の遅れといった課題を解決するための政策方針として、「物流分野における新しいモビリティサービス勉強会」の報告書を取りまとめました。ここでは、商用車メーカーと物流事業者の連携による、IoT化等を活用した物流効率化の取組方針を示しています。例えば、6月からは、トラック・架装の積載情報を可視化することで、異なる運送事業者間で荷台の空きスペースを有効活用するプロジェクトなど、物流効率化を目指した実証事業を進めていく予定です。

「働くクルマ」の需要は、日本の経済活動の元気のバロメーターです。激動する時代の変化の中で、引き続き皆様方が元気に日本を支えていただけるよう、経済産業省としても全力で支援をさせていただきます。

最後になりますが、貴会及び会員各社並びにご出席の皆様のますますのご清祥を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。





## 来賓挨拶



国土交通省  
自動車局 審査・リコール課 課長  
久保田 秀暢 氏

国土交通省審査・リコール課長の久保田でございます。

本日は、日本自動車車体工業会の通常総会が、無事執り行われましたこと、お慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大の影響により、経済は停滞し、世界は今、未曾有の危機に直面しております。貴会員の皆様方におかれましても、大変ご苦勞されていることと拝察申し上げます。

この難局を超えた先、世界は、今までとは少し違った社会になっているかもしれません。しかし、そのような状況においても、我が国の社会・経済において、自動車が果たす重要性に変わりはなく、ひいては、貴工業会の皆様方の役割は、いささかも減ずることがないと確信しております。

国土交通省といたしましても、引き続き、皆様方とともに、自動車の安全確保・環境保全の推進に努めてまいります。

本日、この機会をお借りして、自動車技術行政にかかわる最近の話題を4点ほどご紹介させていただきます。

第1に、本年4月に施行されました、改正道路運送車両法です。この法律は、自動運転車の安全確保に必要な制度を整備すること等を目的として、自動運転車の保安基準の策定、通信を用いたソフトウェアアップデートに関する許可制度の創設、衝突被害軽減ブレーキ等の先進技術に対応する自動車整備工場(特定整備)の認証制度の創設等の制度整備を行うものです。

この法律により、自動運転をはじめとする先進技術について、設計・製造時から使用時まで一貫通貫で、安全確保を図ってまいります。

第2に、適切な完成検査の確保です。国土交通省では、2017年(平成29年)秋以降に発生した不適切な完成検査

問題を受けて、完成検査に関するルールの見直しを行うとともに、監査等を通じてその徹底を図っているところです。あわせて、技術進展等に対応した完成検査の改善・合理化も促進しております。

適切な完成検査の確保のためには、制度変更だけでなく、関係の皆様方の着実な取り組みが必要不可欠でありますので、よろしくお願いいたします。

第3に、リコールについてです。令和元年度に届出されたリコールは、415件(対前年比+7件)、対象台数10,534,494台(同+2,317,154台)であり、世界的な大規模リコールとなったタカタ製エアバッグ関係を除くと過去最高となっております。車両の使用年数が伸びる中、市場における不具合を早期に発見し、迅速にリコールを届け出ていただくことは、自動車の安全の確保の上で、極めて重要です。引き続き、適切なリコールの実施をお願いいたします。

第4に、自動車の審査、リコールに関する手続の合理化です。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、国土交通省においても、従来の紙を中心とした仕事のやり方について、電子申請の一層の拡大、押印の省略、Web会議による打ち合わせ等、抜本的な見直しを進めております。

引き続き、皆様方のご意見も賜りつつ、申請者の方の負担軽減に資する手続の見直しを進めてまいります。

最後になりましたが、木村会長をはじめ、日本自動車車体工業会並びに会員各社の益々のご発展と、本日も臨席の皆様方のご繁栄とご多幸を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。



# 2020年度 理事・監事

自 2020年5月22日  
至 2021年5月 通常総会開催日

|     |                      | 氏名      | 会 社 名         | 会 社 役 職       | 車体工業会役職                   |
|-----|----------------------|---------|---------------|---------------|---------------------------|
| 理 事 | 本部<br>役員             | 木村 昌平   | 日産車体(株)       | 取締役社長         | 会 長                       |
|     |                      | * 宮内 一公 | トヨタ自動車東日本(株)  | 取締役社長         | 副 会 長                     |
|     |                      | 加藤 幹章   | 新明和工業(株)      | 顧問            | 副 会 長                     |
|     |                      | 矢野 彰一   | (株)矢野特殊自動車    | 取締役社長         | 副 会 長<br>(バン部会理事・九州支部長兼務) |
|     | 特装部会                 | 高橋 和也   | 極東開発工業(株)     | 取締役社長         | 部 会 長                     |
|     |                      | 田沼 勝之   | 新明和工業(株)      | 取締役 専務執行役員    |                           |
|     |                      | 土田 享    | KYB(株)        | 執行役員 特装車両事業部長 |                           |
|     | 特種部会                 | 青地 潔    | (株)オートワークス京都  | 取締役社長         | 部 会 長                     |
|     |                      | 小林 広人   | 京成自動車工業(株)    | 取締役社長         |                           |
|     |                      | (北村 守)  | (資)中北車体工作所    | 代表社員          |                           |
|     | トラック部会               | 山田 和典   | 山田車体工業(株)     | 取締役社長         | 部 会 長                     |
|     |                      | 細谷 康次   | 本所自動車工業(株)    | 取締役社長         |                           |
|     |                      | 中条 充啓   | (株)東洋ボデー      | 取締役社長         |                           |
|     | バン部会                 | 昼間 弘康   | 日本フルハーフ(株)    | 取締役社長         | 部 会 長                     |
|     |                      | 吉田 圭一   | (株)パプコ        | 取締役 生産本部長     |                           |
|     |                      | (矢野 彰一) | (株)矢野特殊自動車    | 取締役社長         |                           |
|     | トレーラ部会               | 辻 和弘    | 東邦車輛(株)       | 取締役社長         | 部 会 長                     |
|     |                      | 中島 光彦   | 日本トレクス(株)     | 取締役社長         |                           |
|     |                      | 岡崎 真一郎  | 小平産業(株)       | 取締役 直納営業部長    |                           |
|     | バス部会                 | 山中 明人   | ジェイ・バス(株)     | 取締役社長         | 部 会 長                     |
|     | 小型部会                 | 増井 敬二   | トヨタ車体(株)      | 取締役社長         | 部 会 長                     |
|     |                      | 吉山 慎一   | ホンダオートボディー(株) | 取締役社長         |                           |
|     | 資材部会                 | 小澤 賢記   | ゴールドキング(株)    | 取締役社長         | 部 会 長                     |
|     |                      | 吉川 徳雄   | 天龍工業(株)       | 取締役社長         |                           |
|     | 支 部                  | * 鎌田 直樹 | 北海道車体(株)      | 営業本部長         | 北海道支部長                    |
|     |                      | 鈴木 勇人   | 仙台鈴木自動車工業(株)  | 取締役社長         | 東北支部長                     |
|     |                      | 北村 守    | (資)中北車体工作所    | 代表社員          | 新潟支部長<br>(特種部会理事兼務)       |
|     |                      | 矢島 廣一   | 埼玉自動車工業(株)    | 取締役社長         | 関東支部長                     |
|     |                      | * 景井 啓之 | (株)東海特装車      | 取締役社長         | 中部支部長                     |
|     |                      | 須河 進一   | 須河車体(株)       | 取締役社長         | 近畿支部長                     |
|     |                      | * 平町 省三 | フェニックス工業(株)   | 専務取締役         | 中国支部長                     |
|     |                      | 池浦 雅彦   | (株)タダノ        | 執行役員          | 四国支部長                     |
|     |                      | (矢野 彰一) | (株)矢野特殊自動車    | 取締役社長         | 九州支部長                     |
|     | 事務局                  | 吉田 量年   | 日本自動車車体工業会    | 専務理事          |                           |
|     | 計31名(定数 25名以上 40名以内) |         |               |               |                           |
| 監 事 | —                    | 原田 泰彦   | (株)トランテックス    | 取締役社長         | —                         |
|     |                      | 宮幸 朗    | 自動車精工(株)      | 取締役会長         | —                         |
|     |                      | 田村 元    | (株)浜名ワークス     | 取締役社長         | —                         |
|     | 計3名(定数 1名以上 3名以内)    |         |               |               |                           |

\*印:2020年5月通常総会での新任理事 (氏名):兼任を示す  
(注)会社名及び会社役職は2020年5月22日現在による。

# 退任/新任 理事及び車体工業会功労者 等

## 1. 退任理事

本部・部会・支部順 役職は2020年5月22日時点

|       |       |               |         |
|-------|-------|---------------|---------|
| 副会長   | 永田 雅久 | トヨタ自動車東日本(株)  | 専務取締役   |
| 北海道支部 | 竹澤 靖  | 札幌ボデー工業(株)    | 常務取締役   |
| 中部支部  | 広瀬 康宏 | 元 (株)東海特装車    | 元 取締役社長 |
| 中国支部  | 松井 勇二 | 元 フェニックス工業(株) | 元 取締役社長 |

## 2. 新任理事

本部・部会・支部順 役職は2020年5月22日時点

|       |       |              |       |
|-------|-------|--------------|-------|
| 副会長   | 宮内 一公 | トヨタ自動車東日本(株) | 取締役社長 |
| 北海道支部 | 鎌田 直樹 | 北海道車体(株)     | 営業本部長 |
| 中部支部  | 景井 啓之 | (株)東海特装車     | 取締役社長 |
| 中国支部  | 平町 省三 | フェニックス工業(株)  | 専務取締役 |

## 3. 車体工業会功労者表彰

本部・部会、氏名五十音順 役職は2020年5月22日時点

|    |       |         |           |                      |
|----|-------|---------|-----------|----------------------|
| 本部 | 岡本 斉  | 中央技術委員会 | 新明和工業(株)  | 特装車事業部 品質保証部         |
| 部会 | 上條 崇史 | 特装部会    | KYB(株)    | 熊谷工場 技術部長            |
|    | 井澤 雅史 | バン部会    | 日本トレクス(株) | 設計部 部長               |
|    | 喜多 智之 | トレーラ部会  | 東邦車輛(株)   | 群馬製作所 設計部 トレーラ設計課 課長 |

## 4. 車体工業会永年在籍会員表彰

正・準会員、年数、社名五十音順

|     |     |    |                                                   |
|-----|-----|----|---------------------------------------------------|
| 正会員 | 60年 | 2社 | 極東開発工業(株)、日本車輛製造(株)                               |
|     | 50年 | 4社 | キド車輛工業(株)、東プレ(株)、三菱ふそうトラック・バス(株)、(株)矢野特殊自動車       |
|     | 40年 | 2社 | 大塚自動車工業(株)、(株)オサカベ自動車工業                           |
|     | 30年 | 2社 | (株)東海特装車、(株)中村ボデー                                 |
|     | 20年 | 1社 | (株)協伸製作所                                          |
|     | 10年 | 5社 | アジア工業(株)、(株)永光自動車工業、(株)岡山熔接所、(株)佐藤自動車工業所、(株)室井製作所 |
| 準会員 | 20年 | 2社 | セーレン(株)、(株)ゆう                                     |
|     | 10年 | 1社 | リリカラ(株)                                           |

## 5. 優良従業員表彰

部会、社名五十音順 役職は2020年5月22日時点

|       |             |                            |
|-------|-------------|----------------------------|
| 木谷 満夫 | (株)イズミ車体製作所 | 車両板金課 技術顧問                 |
| 三浦 佳久 | 京成自動車工業(株)  | 製造部 製造三課 電機班 技手班長補佐        |
| 大島 学  | (株)東海特装車    | 技術部 次長                     |
| 坂井 稔樹 | ジェイ・バス(株)   | 特装・リニューアル部 小松特装・リニューアルグループ |
| 栗山 伸二 | 岐阜車体工業(株)   | 車体部プレス課 課長                 |

退任理事



副会長  
**永田 雅久**  
トヨタ自動車東日本(株)  
専務取締役



北海道支部  
**竹澤 靖**  
札幌ボデー工業(株)  
常務取締役



中部支部  
**広瀬 康宏**  
元 (株)東海特装車  
元 取締役社長



中国支部  
**松井 勇二**  
元 フェニックス工業(株)  
元 取締役社長

新任理事



副会長  
**宮内 一公**  
トヨタ自動車東日本(株)  
取締役社長



北海道支部  
**鎌田 直樹**  
北海道車体(株)  
営業本部長



中部支部  
**景井 啓之**  
(株)東海特装車  
取締役社長



中国支部  
**平町 省三**  
フェニックス工業(株)  
専務取締役

功労者表彰



中央技術委員会  
**岡本 斉**  
新明和工業(株)  
特装車事業部 品質保証部



特装部会  
**上條 崇史**  
KYB(株)  
熊谷工場 技術部長



パン部会  
**井澤 雅史**  
日本トレクス(株)  
設計部 部長



トレーラ部会  
**喜多 智之**  
東邦車輛(株)  
群馬製作所 設計部  
トレーラ設計課 課長

優良  
従業員  
表彰



**木谷 満夫**  
(株)イズミ車体製作所  
車両板金課 技術顧問



**三浦 佳久**  
京成自動車工業(株)  
製造部 製造三課  
電機班 技手班長補佐



**大島 学**  
(株)東海特装車  
技術部 次長



**坂井 稔樹**  
ジェイ・バス(株)  
特装・リニューアル部  
小松特装・リニューアル  
グループ



**栗山 伸二**  
岐阜車体工業(株)  
車体部プレス課 課長

# 2020年度 事業計画

## 本部計画

### 2020年度事業計画概要

#### 1. 商用車市場動向

2019年度は米中貿易摩擦の拡大や中東情勢の緊張の高まり等が世界経済に影響を及ぼし政治的にも不安定な状況が続いた。また、香港での民主化運動や地球環境問題への対応は今後も活動が継続され、動向によっては政治、経済を含む様々な場面に影響してくるものと思われる。英国のEU離脱に伴う今後の対応についても、EU域内に留まらず、グローバルでの影響を考えなければならない。そして、2019年12月に中国で確認された新型コロナウイルス感染症(COVID-19)はグローバルに感染が拡大し、パンデミックと認定された。こうした状況で2019年度の世界経済は、当初予測を大幅に下回る結果となった。

日本経済は2019年10月の消費税率引き上げ影響により個人消費が伸び悩みはあるものの、原油価格の安定等による実質購買力の向上や、省力化設備や東京オリンピック・パラリンピック関連を中心に設備投資が底堅く推移し、緩やかな改善が続いていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の国内における感染拡大や世界経済の悪化、さらに東京オリンピック・パラリンピックの開催延期など、取り巻く環境が激変し、景気は劇的に悪化した。

2020年度は引き続き米中貿易摩擦や英国のEU離脱、EU圏経済における減速感の継続、さらに中東問題による影響が引き続き懸念される。そうした情勢を大きく上回る新型コロナウイルス感染症の拡大が止まらず、いまだ終息が見えない状況である。これらが世界の産業、経済に及ぼす影響はこれまで経験したことのないほど大きく、新型コロナウイルス感染症のグローバルでの今後の動向に注視する必要がある。

2020年度の日本経済は平常時においては昨年の消費増税率引き上げが消費マインドを下押し、個人消費は微減となるものと見込まれていた。また、内外の政治、経済の先行き不透明感に伴い、投資マインドの悪化が想定され、製造業における積極的設備投資も小幅増にとどまるとの見込みであった。そうした中、政府による大規模経済対策を受け、公共投資は引き続き堅調に推移するものとの予測がされていた。しかし、新型コロナウイルス感染症による影響の大きさは未だ計り知れない状況である。輸出に関しても世界経済が全く見通せない状況で、国内では緊急経済対策も講じられているが、国内景気を見通すことは困難な状況と言わざるを得ない。

2019年度の国内商用車登録台数は、輸送系車両(貨物車+大中型バス)は前年から引き続き安定的に推移したものの大中型バスの減少等により441千台(前年比97.9%)となった。そのうち当会に關係の深い貨物車の内数である大中型貨物車は、92千台(同100.4%)と2年連続の増加で、4年連続の9万台超えとなった。

2020年度の商用車需要は、引き続きの代替需要は見込まれていたものの、新型コロナウイルス感染症による影響が景気を大きく下振れさせる。また、長期的には社会環境変化に伴う国内輸送量の減少が想定され、国内商用車需要は減少の見込みである。

#### <取り巻く市場環境>

##### ① 2020年度の日本経済は見通せない状況

- ・ 新型コロナウイルス感染症による影響が甚大であり、政府による経済対策等の効果についても景気回復に繋がるか疑問
- ・ 一方、先行きのリスクとして、米中貿易摩擦、中東問題、英国のEU離脱後の対応についても懸念

##### ② 2020年度の国内貨物輸送量はマイナス幅拡大(日通総研データ)

- ・ 自動車輸送2020年度予測=4,096.8百万トン(前年度比3.6%減、内営業用3.9%減、自家用3.0%減)
- ・ 営業用自動車の2020年度は2年ぶりのマイナスと低調に推移
- ・ 自家用自動車は2020年度も引き続き低調に推移

##### ③ 運送事業者の景況感は低下傾向(全日本トラック協会調査)

- ・ 直近(10-12月)の景況感は▲52.3と前回から25.0ポイントの悪化
- ・ 「1-3月」の景況感は、世界経済の動向、中東情勢による燃料価格の上昇圧力、消費税増税による輸送数量減少、新型コロナウイルス感染症による経済活動への悪影響など、不透明な経営環境が続く見通しを反映し、▲61.4と9.1ポイント悪化する見込み
- ・ 実働率は▲33.5(今回▲28.7)と4.8ポイント悪化、実車率は▲31.8(今回▲28.4)と3.4ポイント悪化するなど輸送効率は悪化の見込み
- ・ 採用状況は▲17.7(今回▲7.5)と10.2ポイント低下することから、雇用状況(労働力の不足感)は90.1(今回81.8)と8.3ポイント上昇し、不足感が強まる見込み
- ・ 経常損益は、労働力不足等の影響から、▲43.9(今回▲36.2)と7.7ポイント悪化し、経常損益の水準は落ち込む見込み

##### ④ バス輸送業界も依然として厳しい状況

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う国内外観光者の減少及び経済活動縮小による日常的バス利用者の減少等、急激かつこれまで経験したことない環境変化への対応
- ・ 輸送人員は三大都市圏で2011年度を底に増加に転じ、2018年度は前年度比100.1%。ただし、その他の地域では減少傾向に歯止めはかかったものの横ばいの状況
- ・ 輸送人員が横ばいで推移する中で、地域の生活の

足としての路線バスは、国や自治体の支援なくして維持していくことが困難な状況が継続

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大以前のインバウンドの増加は貸切りバス需要増には直接的に繋がっておらず、輸送人員増にも必ずしも結びついていない
  - ・バスに対する安全、信頼を回復するため、安全輸送体制の確立に向けソフト、ハード両面からの取組みを継続推進
  - ・東京オリンピック・パラリンピックに向け、競技会場輸送、外国人観光客対応、バリアフリー化等への対応
  - ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う国内外観光者の減少及び経済活動縮小による日常的バス利用者の減少等、短期環境変化への対応
- ⑤ 貨物車保有台数の減少、平均使用年数の伸びが続き代替母数はダブルの影響で減少
- ・貨物車（小型+普通）保有台数（2019年10月末）は約33千台増（対前年比0.56%増）の5,921,500台と1991年度以降の減少傾向に歯止めがかかり、2013年度からは横ばいとなり、直近では微増で推移
  - ・普通貨物車の平均使用年数は2018年から0.43年伸び17.58年と過去最長を7年連続で更新
- ⑥ 2003～6年のNOx・PM法適用に伴う特需の代替需要継続
- ・普通貨物車の平均使用年数は約17年であり、営業車に加え自家用車の代替も進展する見込み
- ⑦ 物流総合効率化法に対応した輸送網の集約、更なる共同配送等の推進及び汎用車化の進展
- ・営業車比率は生産関連貨物、消費関連貨物で増加、レンタカー増加、実車率向上のため、汎用車化が進展
  - ・省エネ、積載効率向上のため更なる軽量化の進展と労働力確保に向けた省力化の推進
- ⑧ シャシメーカーの海外進出は進展（新興国中心）
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴うサポート活動の推進
  - ・シャシメーカーはアセアン、中国を中心に海外現地生産を着実に推進し、更に中近東、アフリカ、北米での事業展開を計画
  - ・輸出地域毎の仕様最適化（新興国のローコスト仕様車等）の強化
  - ・海外での架装は現地架装メーカーが大半を担当

## 2. 車体業界の動向

2019年度の架装メーカー生産台数（非量産車）は183,249台（対前年比97.7%）と2年連続の前年割れとなった。これは主に台数規模が大きい特装車、及び特種車、トレーラが増加したものの、バン車が2年連続の減少となったことによるものである。世界経済は米中貿易摩擦の激化は回避の方向であるが、英国のEU離脱の影響等が懸

念され、さらに新型コロナウイルス感染症による経済活動への影響は、輸出産業の減速に繋がっている。これまで国内経済は個人消費や民需、官需に支えられ引き続き緩やかな成長が見込まれるとの予測があったが第4四半期の状況は新型コロナウイルス感染症の拡大により一変した。また、引き続きの貨物輸送量の漸減、保有台数の減少、使用年数の長期化、さらにメーカー標準車の増加等は、車体業界に中長期的な影響を及ぼすことが懸念される。

### <考慮すべき経営環境>

- ① 需要増減への対応を考慮した企業体質強化
- ・新型コロナウイルス感染症拡大等、世界的規模での想定を超える環境変化への迅速かつ適切な対応
  - ・東京オリンピック・パラリンピックの開催延期、公共投資等への対応とこれら時限的な需要増減への適切な対応
  - ・リーマンショック後の経験を踏まえ、また新型コロナウイルス感染症の終息も見据え、中長期視点での更なる企業体質改善と強化の継続
- ② お客様要求の高度化、多様化、及び先進技術（IoT（Internet of Things）、AI、CASE等）への対応
- ・低価格要求：コスト低減策の推進（部品の共通化、流用技術等における協業活動の推進）
  - ・省燃費&高積載量：軽量化および走行性能向上を図る最適設計技術の推進と新材料の採用
  - ・環境対応：ハイブリッド化、3R等の推進
  - ・商品力競争：輸送の高品質化、汎用積載化、積載効率アップ、荷役省人化
- ③ 安全に関して市場要求レベル高まり
- ・使用期間の長期化に適切に対応したお客様への安全・安心確保策の推進
  - ・自動運転技術の進展等への適切な対応
  - ・会員のリコール、PL情報の展開と自社製品への反映
- ④ グローバル化進展への対応
- ・海外メーカーの日本進出：一部特装車や大型バス
  - ・現地生産化：シャシメーカーの進出に合わせ架装メーカーの新興国進出（技術提携や合併）
- ⑤ シャシメーカーの完成車ビジネス強化への対応
- ・量産での納期短縮、生産負荷が高い場合の負荷低減、及びシャシメーカーとしての付加価値確保等を目的としたシャシメーカーでの完成車ビジネスは今後も進展
  - ・シャシメーカーがお客様の要望に対応出来ない特徴的な商品の開発・提供とシャシメーカーに劣らぬ品質確保
- ⑥ 中小企業経営におけるCSR対応、リスクマネジメント体制整備
- ・SDGsへの取組みによる社会環境変化に応じた適切な対応に向けた更なる仕組みの充実と新型コロナウイルス感染等、危機管理への確実な対応・推進

### 3. 当会会員状況

#### ① 会員数

- ・ 正会員は2019年度に4社入会、1社退会し、197社
- ・ 準会員は2社入会、2社退会 100社、合計297社
- ・ 入会目的は法規情報、業界情報入手への期待が大きく、期待に応える必要あり

#### ② 生産台数

2019年度…委託含む全会員=2,304千台(前年比98.7%)

うち非量産車=183千台(同97.7%)と約4,200台減少し2017年をピークに漸減

#### ③ 売上高(2019年度調査は2018年度売上)

生産委託会社を含む全会員の車体部門売上=6兆1,087億円(前年度比105%)

うち非量産車製造会社=7,403億円(同98%)

景況指数(増収会社率-減収会社率)は11.2(同-1.2)となったものの安定的に推移

#### ④ 従業員数(正社員)

生産委託会社を含む全会員の車体部門従事正社員=45,599人(同102.8%)

うち非量産車製造会社=15,156人(同103.3%)

### 4. 車体工業会2019年度活動実績と課題

会員企業の技術レベルアップ支援活動として技術的困りごとへの法規対応、中小会員支援活動、中長期課題への対応は計画どおり進めることができた。

#### 4-1. うまくいったこと

##### (1) 法規関係への対応

技術的規制項目で業界や社会的メリットにつながる適用基準の適正化要望、及び協定規則改正提案への対応など着実に推進した。

① BSIS(Blind Spot Information System:側方衝突警報装置)に関する協定規則及び保安基準改正への対応

② UN-R58-03への対応として、突入防止装置の試験に用いる代表フレーム選定資料作成およびみなしバンパに関する新規検査時の取扱いの明確化、及び新JABIAリベット制度の創設

③ 少子化等による少人数の送迎に対応するため、1BOX車ベースでの幼児専用車の需要に伴い幼児専用車のための審査事務規程改正

##### (2) 環境意識の醸成

① 産業廃棄物削減に向け会員様の困りごとに対する改善、およびCO<sub>2</sub>排出量削減に向け省エネ法に基づく第二種指定事業者への支援を一元化した活動の推進

② 環境基準、新環境基準適合ラベルの取得促進に向けた支援活動推進

##### (3) 中長期的課題への取組み

① 架装物の安全点検制度の登録普及活動の推進

② 中小会員の課題解決に向け、中小会員ネットワーク強化WGでの調査及び方策論議と報告書発信

#### (4) 当会活性化

① 会員数は正会員が増加、なお準会員数は変化なし

② イベント参加者数は4年連続350人超えを継続(通常総会、技術発表会)、そして技術発表会に関しては、参加者満足度90%超を維持

#### 4-2. うまくいかなかったこと、課題

以下については推進したものの目論みどおり進められたとは言えず、課題が確認でき、進め方、方策を見直していく。

##### (1) 中央業務委員会(中小企業経営支援)

① 中小会員支援策の充実に向け、部会活動と連携した要望事項の収集と横展開

② コンプライアンス意識醸成活動の更なる充実に向けた支援活動の推進

##### (2) 中央技術委員会

① 架装物の安全点検制度の運用拡大と関係者への理解、周知活動の継続推進

② 法規制等への適用基準の適正化検討、推進における関係官公庁との相互理解活動強化

③ 部会活動活性化による調査研究テーマの更なる質の向上と成果の充実

##### (3) 環境委員会

① 環境・新環境基準適合ラベル取得促進支援と適切かつ有効なPR活動の推進

② 産業廃棄物減量化及びCO<sub>2</sub>削減に向け、会員、環境委員会委員が一体となった活動の推進

##### (4) 事務局強化活動(会員満足度向上)

① 業務の効率化と質向上に資する項目の継続した洗出しと基準書、業務マニュアルの新規作成と継続的改訂

② 講演会・見学会の更なる充実に向けた情報収集活動の強化と企画立案

##### (5) 会員数の増加

① 本部と支部、及び部会と連携した地域会員、非会員への勧誘活動の継続

② 非会員情報(リスト)の継続的見直し

#### 4-3. 主要活動項目の進捗結果

2019年度の活動を通じ成果が得られたものの、課題も確認できた。

##### (1) 安全対応活動：○

① 法規改正への当会意見反映については、適用基準の適正化等、関係団体と連携し着実に取り組んだものの、更なる充実に向けた取組みの検討、推進

② 調査研究に関わる基準化・標準化の推進では14項目に取り組む、JABIA規格制定2件、改正5件と計画どおり進捗

③ 調査研究に関しては、進捗確認と情報の共有化のため計画時点での内容、及び中央技術委員会で議論しているものの、更なる論議の充実が必要

##### (2) 環境対応自主取組みの推進：○

① 産業廃棄物減量化への取組み、環境・新環境基準適合ラベルの取得推進、CO<sub>2</sub>削減等で個社の課題を確認し、部会と連携のうえ、個社と環境委員会

委員が一体となり活動を推進

(3) 中小企業支援活動の推進：△～○

- ① 中小企業でのコンプライアンス経営の実態把握では回答率100%を達成したが、意識醸成、各種規定制定に向けた支援活動の検討、推進
- ② 中小企業支援策に繋がる要望事項の収集、論議の充実と支援活動の推進
- ③ 安全衛生活動では自社の安全衛生活動における「気づき」に主眼をおいた事例の会員展開を推進してきているが、会員における活用状況等の確認が必要

(4) 活性化活動の継続推進：○～△

- ① 支部連絡会での共通テーマでの議論の活発化、支部毎の良いところ取り活動の範囲拡大が図られてきているが、更に地域の特性を生かしながら各支部への横展開の推進が必要

## 5. 2020年度重点活動項目

### <これまでの活動総括>

- ① 一般社団法人への移行を機会に「会員メリットに直結する事業最優先」の考えで、さらに技術的活動の充実を図り、法規対応等で成果につながられた。
- ② 会員数や当会行事への会員参加数の増加は、活性化のひとつの指標。  
→ 特に非会員の入会目的では当会からの情報提供や会員相互のコミュニケーションへの期待が大きく、入会後の当会活動への参画も積極的であり、これらに応えるため更なる満足度向上のため内容の充実を図る。
- ③ リーマンショック後の景気回復局面では、東日本大震災の復興需要や東京オリンピック・パラリンピックの開催準備の等、時限的な需要に支えられた。2025年には大阪・関西万博が開催されるものの、景気動向は中長期的には不透明である。また新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響は大きさや期間を見通すことができないものの、環境変化を迅速かつ的確にとらえ、車体業界の成長を確かなものにしていくためにも自社の経営戦略に基づく取組みが重要。

### <2020年度主要活動項目(案)>

これまでの重点活動項目(4項目)による取組みが成果につながっており、それらを踏襲したうえで会員要望や取り巻く環境を考慮した活動とする。

#### (1) 安全対応活動の推進

- ① 架装車に最適な車両  
法規改正提案と決定  
事項の円滑な対応
- ② 車体に関する規格化、基準化推進
- ③ 使用過程車の安全確保策と保守点検の啓発活動
- ④ 技術的調査研究の共同実施、共同開発、部品共通化の推進、CASE等新技術への対応
- ⑤ 会員企業の技術レベルアップ支援活動

中央技術委員会／各分会

- ⑥ 架装物の安全点検制度  
の運用(点検整備推進分科会活動)

#### (2) 環境対応自主取組みの推進

環境委員会／各分会

- ① 架装物リサイクルに関する自主取組みの推進
  - ・ 易解体性の向上／分別性の調査・検討
  - ・ 環境・新環境基準適合ラベルの取得と普及促進活動の推進
  - ・ 架装物搭載LiBの廃棄・リサイクルスキーム検討
  - ・ 環境負荷物質フリー宣言100%の継続及びフォローアップと支援活動の推進
- ② 生産活動に伴う環境対応の継続的推進及び2030年自主目標の検討(CO<sub>2</sub>、VOC、産業廃棄物)
- ③ 環境対応技術等の会員支援の更なる充実
- ④ 環境保全への意識啓発や当会環境活動PRの充実

#### (3) 中小企業支援活動の推進

中央業務委員会／事務局

- ① SDGs実施方針に基づく取組み
  - ・ 「働き方改革」の実践状況の調査と困りごとに対するサポート
  - ・ 中小企業の生産性向上のための設備投資策支援
  - ・ 中小企業を中心とした人材育成支援策の充実
- ② 部会活動と連携した要望事項、困りごとの収集及び対策状況の共有とCOVID-19等の影響に対する自動車関係団体とも連携した支援策の推進
- ③ 中小企業経営に関する有用な情報の調査と展開
- ④ コンプライアンス経営支援及びリスクマネジメントへの対応支援の推進
- ⑤ 中小会員ネットワーク強化WG活動  
の推進と将来ビジョンの再構築
- ⑥ 安全衛生活動に寄与する情報収集・発信と支援
- ⑦ 中小会員を対象とした「現地現物による技能系社員研修会」の継続開催

事務局／WG

#### (4) 活性化活動の継続推進

事務局／委員会／分会／支部

- ① 車体業界の社会での認知度向上
  - ・ 東京モーターショーを含め、認知度向上のためのイベント参加等の検討
  - ・ 広報活動の充実
- ② 部会活動充実
  - ・ 部会単位での業界連携の仕組み検討
- ③ 支部活動の充実
  - ・ 支部活動のあり方検討、支部毎の良いところ取り活動の推進
- ④ 事務局体質強化活動
  - ・ 会員満足度向上活動を通じた事務局強化

## 部会事業計画

### 特装部会

#### 1. 現状認識

- ① 2019年度の特装部会の生産台数は、特装车全体では

60,790台(前年度比100%)と前年度並みであったが、9月以降は減少傾向が続いている。

国内向け輸送系車両は42,589台(同103%)と2年連続で増加。車種別では、ダンプ車33,834台(同100%)、タンクローリ2,754台(同105%)、トラックミキサ車2,230台(同112%)、粉粒体運搬車839台(同104%)、脱着コンテナ車2,932台(同123%)という状況。

国内向け作業系車両は14,069台(同100%)で前年並み。車種別では、消防車1,129台(同98.6%)、コンクリートポンプ車277台(同105%)、環境衛生車6,851台(同103%)、高所作業車5,029台(同100%)、その他783台(同82.8%)という状況。

- ②2020年度予算案では、公共事業費は総額6兆8,571億円(うち一般公共事業費は6兆669億円)で、前年度比528億円減(うち、一般公共事業費は73億円増)となっている。

## 2. 活動方針

大きな変化はなく、引き続き次の事項に取り組む。

### (1) 部会全体活動

多種多様な特装車の横断的事業を展開する。また、架装業界発展のための将来ビジョンを構築する。

### (2) 車両法規対応

車両法規の改正の素案段階で各分科会の意見や要望をとりまとめる。また、規制項目で業界や社会的メリットになるものを見直す。

### (3) 規格化・標準化

共通使用している装置等の強度基準／安全装置を規格化、標準化し品質維持を図る。

### (4) 部品等の共通化・共同開発の検討

部品/装置等を共用化し原価低減、開発費削減を図る。

### (5) 調査研究の推進

経費節減を図るため共同で調査研究して情報を共有化する。

### (6) 環境への取組み

継続生産品の環境フリー部品への切り替え。また、新環境基準適合ラベル取得を推進する。

### (7) 特装車適正使用の推進

特装車の適正使用の推進及び架装物の点検整備促進活動を実施する。

### (8) 生産台数情報の共有

市場状況の分析、把握。

### (9) 会員カバー率向上活動

部会の活性化。

### (10) その他

中央業務委員会との連携。

## 3. 部会活動計画

### 1) 部会全体活動

- ① 部会総会及び部会長報告会
- ② リコール等重大不具合の再発防止共有活動

### ③ 工場見学会の実施

### ④ 架装物の安全点検制度の普及拡大

## 2) 技術委員会

### (1) 車両関係法規の対応

- ① 車両法規等改正への意見反映と円滑な対応
  - ・ 協定規則の動向把握と意見反映
  - ・ 国内法規改正前の意見反映
  - ・ 法規改正後の会員指導
- ② 技術的な困りごとの洗出しと会員支援等
  - ・ 塵芥車の消防署向け講習会対応(塵芥)
  - ・ バックカメラ義務化対応WGに参画(ダンプ、脱着、塵芥、粉粒体、クレーン、清掃、TGL)

### (2) 規格化・標準化の推進

- ① JABIA規格化等
  - ・ 脱着装置付コンテナ自動車の緊締装置の強度基準改正(P1500脱着)
  - ・ 吸引清掃車の油圧機構に関する安全基準改正(P1150清掃)
  - ・ スクリューバルク車の標準仕様制定(粉粒体)
- ② 標準化
  - ・ ISO-TC297対応(塵芥、清掃)
  - ・ ISO-TC2195対応(清掃)

### (3) 部品等の共通化・共同開発検討

- ① タンクローリのサイトグラスの評価基準の共通化(ローリ)
- ② キャリア・コンテナ互換性定期審査の実施(脱着)

### (4) 調査研究の推進

- ① 脱着車解説本の改正(脱着)
- ② ISO-TC195-SC1の情報共有(ミキサ)

### (5) 環境への取組み

- ① 環境負荷物質フリー宣言の継続維持支援フォロー
- ② 新環境基準適合ラベル取得フォロー

## 3) サービス委員会

### (1) 特装車の適正使用の推進

- ① 特装車メンテナンスニュースの作成とPR活動
  - ・ ニュースNo50(作動油、 그리스)発行
  - ・ ニュースNo51(車両と架装物の締結)作成
- ② 架装物の安全点検制度の普及調査
- ③ 異業種工場見学会の開催

## 4) 業務委員会

### (1) 生産台数情報の共有

- ① 市場状況の分析把握及び各社生産台数情報の共有

### (2) 会員カバー率向上活動

- ① 地域会員/非会員リストの定期的メンテナンス
- ② 定期的な勧誘活動の推進

### (3) その他

- ① コンプライアンス優先経営の徹底
- ② 中小企業会員支援

## 特種部会

### 1. 現状認識

#### (1) 特種車の2019年度生産実績

- ・ 特種車全体は12,085台(前年度比106%)と2年ぶりに増加。
- ・ 量産車(車いす移動車／警察車両)は8,281台(同101%)と3年連続の増加。  
内訳は車いす移動車4,545台(同85.2%)、警察車両3,736台(同129%)。
- ・ 非量産車は3,721台(同122%)と3年ぶりの増加。  
作業工作用、サービス用車両及び高規格救急車等の緊急用車両が増加。

#### (2) 国内市場と車体業界の動向

- ・ 商用車市場動向  
2020年度の商用車需要は、引き続きの代替需要は見込まれていたものの、それ以上に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による影響が景気を下振れさせる。また、長期的には社会環境変化に伴う国内輸送量の減少が想定され、国内商用車需要は減少の見込みである。
- ・ 車体業界の動向

2019年度の架装メーカー生産台数(非量産車)は183,249台(対前年比97.7%)と2年連続の前年割れとなった。これは主に台数規模が大きい特装車は増加したものの、バン車の減少によるものである。

これまで国内経済は個人消費や民需、官需に支えられ引き続き緩やかな成長が見込まれるとの予測があったが第4四半期の状況は一変した。また、引き続きの貨物輸送量の漸減、保有台数の減少、使用年数の長期化、さらにメーカー標準車の増加等は、車体業界に中長期的な影響を及ぼすことが懸念される。

### 2. 活動方針

これまでの本部の重点活動項目(4項目)の安全対応活動の推進、環境対応自主取組みの推進、中小企業支援活動の推進、活性化活動の継続推進に沿った部会の取組みが成果に繋がっており、それらを踏襲したうえで会員要望や取り巻く環境を考慮した活動とする。

#### (1) 安全対応活動の推進

- ・ 自動車技術総合機構との技術検討会による法規解釈や車検対応等の支援活動の充実
- ・ 架装車に最適な車両法規改正提案と決定事項の円滑な対応を継続して進めるとともに、中・長期的なテーマの検討も実施

#### (2) 環境対応自主取組みの推進

- ・ 環境・新環境基準適合ラベルの取得と普及促進活動の推進や環境負荷物質フリー宣言100%の継続及びフォローアップと支援活動の継続
- ・ 架装物搭載LiBの廃棄・リサイクルスキームの検討

(環境委員会と連携)

#### (3) 中小企業支援活動の推進

- ・ 中央業務委員会と連携した、中小企業会員の困りごとや要望事項に対する支援
- ・ コンプライアンス規定制定に向けた支援の継続

#### (4) 活性化活動の継続推進

- ・ 車体業界の社会での認知度向上のためのイベントや各種広報活動への参画

### 3. 活動計画

部会活動は下記とするが、新型コロナウイルスによる経済への影響の深さ、長さによっては活動内容の充実拡大や変更、中止することもありうる。

#### 1) 部会全体

- (1) 合同委員会の定例(4回／年)開催
  - ・ 部会長、業務委員、技術委員に加えて、特種部会代表の本部委員会・WGの委員も参加して幅広い情報共有／論議を継続
- (2) 関連法令改正等に伴う適切な情報提供等対応への支援
- (3) リコール等重大不具合の再発防止のためのタイムリーな情報提供
- (4) 工場見学会(3回／年)の実施
  - ・ 若手向け工場見学会を1回／年開催する。
  - ・ 第1回を7月、第2回を9月、第3回を1月で実施予定

#### 2) 技術委員会

- (1) 自動車技術総合機構との情報交換(第14回目の開催)
  - ・ 年度末の繁忙期を避けて、前年同様1月中旬の実施を予定
  - ・ 会員各社の困りごと等課題解決の場として有効
- (2) 車両関係法規の対応
  - ・ 新法規・法規変更に伴い、対応が必要な項目発生都度対応
  - ・ 「特種要件見直し要望項目」の集約と中央技術委員会への要望提出

#### (3) 調査研究・基準化の推進

- ・ 中期的な調査研究テーマの検討  
特種車横断的なテーマについては必要に応じてWGを設置
- ・ 法規変更に伴う基準化／共通化項目の検討
- ・ 中央技術委員会の「突入防止装置技術委員会」「テールゲートリフタ技術分科会」、「機能安全規格ISO26262WG」、「バックカメラWG」に部会代表委員が継続して参画

#### (4) 環境への取組み

- ・ 環境基準適合ラベルの部会内での計画的取得の促進
- ・ 環境負荷物質フリー宣言継続のフォローアップ

#### 3) 業務委員会

- (1) 会員カバー率の向上活動

- ・非会員リストの定期的メンテナンスによる加入促進活動の継続

## (2) 部会内協力体制の維持/強化

### ① 部会合同研修の実施

- ・中央業務員会主催の「管理監督者層対象のマネジメント合同研修」に参画

### ② 中小企業経営関連支援の充実

- ・中央業務委員会と連携した支援策の検討
- ・中央業務委員会の「安全衛生活動WG」に部会代表委員が継続して参画

### ③ 部会会員のコンプライアンス経営への意識醸成

- ・「コンプライアンス優先経営」に関し、規定制定へのサポートを実施

### ④ 他部会状況の共有の継続

## (3) 生産台数情報の共有の継続

# トラック部会

## 1. 現状認識

2019年度トラック車体全体の生産台数は30,365台(前年度比96.7%)で、シャシメーカー納入標準荷台を除いた当会特有の架装台数は15,563台(同93.3%)と2年ぶりに減少した。

当会特有架装サイズ別では、大型5,647台(同102%)、中型5,084台(同92.1%)、小型・軽(同)4,832台(同85.9%)である。車種別では、普通型あおり、車両運搬車がともに減少したが、深あおりが増加。大型は普通型あおりが減少したが、深あおりが増加。中型は普通型あおり、産業機械運搬車がともに減少。小型・軽は普通型あおり、車両運搬車がともに減少。

会員の現状はここ数年、6か月以上の受注残を抱え、生産能力は限界に近づいている状況が継続し人材も不足の状況が続いていたが、取り巻く環境は3月に入り、新型コロナウイルス感染症の影響から、激変し「厳しい状況にある」と様変わりした。我々の生産分野においても海外部品の不足や感染症の影響から徐々に厳しさを増している。しかしながら、次世代EVの普及化、自動走行、隊列走行の実験走行も行われ、また、安全性から後方視界のバックカメラ・ソナー、左巻込み防止のBSIS(Blind Spot Information System：側方衝突警報装置)の取込み検討など新技術の展開が早く、注意が必要である。物流も貨客混載、多頻度小口配送が増えている。また、シャシメーカー4社からは排出ガス対応新型車が相次ぎ、シャシの仕様変更に伴う組付けの対応に対する一層の品質確保が要求された。

2019年度のトラック部会会員数は2社入会し、74社となった。部会の特徴として、多くの会員会社は個別ユーザーニーズに丁寧に対応するボデー生産を行っている。

2019年度トラック部会の技術・業務活動総括については、技術活動は、「車両運搬車の構造基準」のJABIA規格(JABIA-T1000)を改訂させ大きな成果を出せた。

業務活動においては、会員支援として会員会社にとって有益となる、「労働基準監督署からの指摘事例集」の展開を行い成果を出せた。

また、架装物の安全点検制度登録の働きかけをし、トラック部会では6社が登録。

## 2. 活動方針

工場見学会や異業種との交流を進め会員相互の情報交換の場を提供する。また、技術的活動(調査研究、共通化)を充実させ、業務活動では会員の声に耳を傾け、会員の利益向上につながる業務案件の提供に努めていく。

## 3. 活動計画

### 1) 部会

- (1) 定期的な部会会議開催と会員相互の情報交換
  - ・部会開催の内、地方の会員参加の容易化と部会活動活性化のため、地方開催を検討
- (2) 工場見学会(異業種工場・施設)、講演会の開催
- (3) 官公庁からの経営支援策や関係法令改正等の情報展開と適切な対応

### 2) 技術委員会

- (1) 基準化・標準化
  - ・「点検整備制度対象車型追加」の検討
  - ・バックカメラ取付位置の調査
- (2) 法規・安全対策
  - ・必要な項目を発生毎に対応

### 3) 業務委員会

- (1) 会員支援
  - 会員会社にとって有益となる内容検討と実施
  - ・外国人の雇用実態と困りごと調査
  - ・各省庁、都道府県からの補助金、助成金の勉強会(上半期・下半期を調査し報告)
- (2) 会員加入の促進
  - ・非会員会社の新たな掘り起しの推進(昨年度からの継続テーマ)

### 4) 技術・業務委員会

- (1) 架装物の安全点検制度 運用・普及化
  - ・部会会員への働きかけ
  - ・会員への周知と運用状況把握
  - ・部会への現状を分科会に報告
  - ・制度運用についての説明
- (2) 環境対応(環境委員会との連携)
  - ・環境基準適合ラベル(ホワイト・ゴールドラベル)の計画的取得の促進・フォロー
  - ・環境負荷物質フリー宣言100%の維持・継続フォロー
  - ・解体マニュアルの見直し

### 5) 車両運搬車分科会

- (1) 関係団体(一般社団法人日本陸送協会)との交流
  - ・日本陸送協会メンバーとの意見交換を実施し、ユーザーサイドの有用な情報を入手

## バン部会

### 1. 現状認識

2019年度バン型車全体の生産台数は80,484台(前年度比94.4%)となり2年連続で減少。

サイズ別では大型23,047台(同109%)と増加。中型23,957台(同89.2%)、小型(含む軽)33,480台(同89.9%)とともに減少。車種別では、ドライバン(ウイングドライ含む)が51,077台(96.0%)、冷凍・冷蔵車(ウイング冷凍含む)が26,535台(同91.8%)とともに減少。

会員の現状は3月入り、新型コロナウイルス感染症の影響により海外部品の不足が始まり、この先シャシーメーカーからの納入遅れも予想される。

一方、取り巻く環境は次世代EVの普及化、自動走行、隊列走行の実験走行も行われ、また、安全性から後方視界のバックカメラ・ソナー、左巻込み防止のBSIS(Blind Spot Information System:側方衝突警報装置)の取込み検討など新技術の展開が早く注意が必要である。物流も貨客混載、多頻度小口配送が増えている。

2019年度バン部会の技術・業務活動総括については、技術活動は、基準化・規格化テーマでバン車「安全輸送ニュース」No.3をとりまとめ発行、「新規検査等届出書の記載ブック」の発行、「取扱説明書の手引き」を発行。車の使用期間が延びる中、又 社会性からみても安全確保策は評価でき大きな成果となった。業務活動においては会員支援として営業社員教育マニュアルとして「営業社員教育」の手引き書を取りまとめた。

2019年度のバン部会会員数は退会なし、26社。

### 2. 活動方針

技術的活動(基準化、規格化)を充実させ、業務活動では会員の声に耳を傾け、会員の利益向上につながる業務案件の提供に努めていく。

また、工場見学会や異業種との交流を進め会員相互の情報交換の場を提供する。

### 3. 活動計画

#### 1) 部会

- (1) 定期的な部会会議開催と会員相互の情報交換  
部会開催の内、地方の会員参加の容易化と部会活動活性化のため、地方開催の検討
- (2) 工場見学会(異業種工場・施設)、講演会の開催
- (3) 官公庁からの経営支援策や関係法令改正等の情報展開と適切な対応
- (4) 会員生産台数の展開

#### 2) 技術委員会

- (1) 基準/標準化
  - ・バン車「安全輸送ニュース」No.4発行
  - ・「バン型車に関する用語」JABIA規格の改訂
  - ・「冷凍機付自動車取扱いの手引き」の改訂
- (2) 法規・安全対策

- ・必要な項目が発生毎に対応
- (3) 関係団体(一般社団法人 日本冷凍空調工業会)との交流
  - ・冷凍機器の動向・生産状況、市場情報、法規安全情報等、有用な情報の入手

#### 3) 業務委員会

- (1) 会員支援
  - ・営業職に関わる知識向上  
登録台数と市場データ動向データ等の情報を共有する
  - ・会員の困りごと、課題を共有し意見交換し将来のビジョンを提案
- (2) 会員加入の促進
  - ・非会員会社の新たな掘り起しの推進(昨年度からの継続テーマ)

#### 4) 技術・業務委員会

- (1) 環境対応(中央・環境委員会との連携)
  - ・環境基準適合ラベル(ホワイト・ゴールドラベル)の計画的取得への促進・フォロー
  - ・環境負荷物質フリー宣言100%の維持・継続フォロー
  - ・解体マニュアルの見直し

#### 5) 点検整備推進分科会メンバー

- (1) 架装物の点検制度 運用・普及化
  - ・部会会員への働きかけ
  - ・会員への周知と運用状況把握
  - ・部会の現状を分科会に報告
  - ・制度運用についての説明

## トレーラ部会

### 1. 現状認識

- ・2019年度のトレーラ需要は9,437台(前年度比108%)となった。  
2019年度は台風被害や消費税増税の影響で一時的な景気の減速が見られた。その様な状況でも、トレーラはドライバー不足の解消対策等として、昨年度比大幅な増加となった。  
トレーラ生産は、バンが前年度比120%、コンテナ用は同110%、平床(あおり付き含む)・低床は同96%という結果になった。その他のトレーラは前年度比100%であった。
- ・2020年度は、米中貿易摩擦歯止めによる輸出入持ち直し、原油価格安定等のプラス要因に対し、新型コロナウイルスのマイナス影響が予測困難な状況ではあるが、トレーラメーカー各社受注残もあり、総需要9,400台、2019年度並みと見込む。
- ・トレーラに関する法令化・規制緩和などの要望・調整の継続活動、また、国際化する「輸送の高効率化」の動きに対しての情報把握や調査など他部会とも連携した対応が必要。
- ・関係法令として、R117タイヤ単体騒音、共通構造部

(多仕様自動車)型式指定制度、CS(サイバーセキュリティ)、SU(ソフトウェアアップデート)へ対応。

- ・トレーラの安全性については、ABS付車の安全性、ROCの周知による普及活動を、媒体の変更も視野に入れた積極的な推進が必要。
- ・ブレーキ機器関係の日常点検・定期点検整備不足に起因する市場問題、火災と車輪脱落防止のための緊急対策に対し、関係する官公庁、団体と連携し点検整備の周知・啓発活動を継続して進める必要あり。
- ・また、「自動車整備標準作業点数表」への「トレーラ点検点数」掲載、及び「点検・分解整備記録簿」の更なる周知・啓発活動が必要。
- ・トレーラが法規上、自動車であることの再認識と、安全な運行のために特にトレーラ部会の指定する点検整備や定期部品交換につき、使用者及び所有者への周知徹底が必要。

## 2. 活動方針

- ・従来の活動として「安全への取り組み」、「関係法令の改正などに伴う的確な対応」、「品質技術向上」、「会員事業の活性化支援活動」、「環境への取り組み」、「経年車の安全な使用に向けて」の周知活動に取り組む。
- ・また、2015年度から新たな取り組みとして実施した「点検整備の必要性が顧客に展開・周知できる仕組みの整備」の活動内容を本年度も継続し取り組み、更に充実させていく。

## 3. 活動計画

### 1) 部会

- (1) 関係法令の改正等に伴う適切な対応及び適用緩和要望の支援
- (2) 会員事業の活性化を促進するための支援活動
- (3) 安全及び長期使用に関わる品質への取り組み等の事業計画内容について、部会としての対応を検討・推進
- (4) 各委員会の事業計画進捗状況の確認と課題審議
- (5) 部会会員相互の情報交換

### 2) 技術委員会

- (1) 関係法令の改正などに伴う対応として

| 適応協定規制 |               | 適用開始    |         | 影響するトレーラ   |
|--------|---------------|---------|---------|------------|
|        |               | 新型車     | 継続車     |            |
| R13    | 制動装置          | 2015/9～ | 2017/2～ | 全般         |
| R79    | かじ取装置         | 2017/7～ | 2019/7～ | ステアリング装置付車 |
| R4     | 後部番号灯         | 2020/6～ | 2020/6～ | 全般         |
| R58    | 突入防止装置        | 2019/9～ | 2021/9～ |            |
| R117   | タイヤ単体騒音       | 2023/4～ | 2026/4～ |            |
| (R117) | 同上(自主対応)      | 2020/1～ | 2020/1～ |            |
| R***   | ソフトウェアアップデート等 | 2022/1～ | 2022/1～ | 規制番号未決     |

- ① R117のうち環境省の自動車車体騒音専門委員会(自騒専)の決定を受けた対応に関する取り組み
  - ・ 不適合タイヤ手配禁止の維持、徹底
  - ・ 啓発活動が必要か否か、自工会と相談して進める。
  - ・ 対応完了報告書の作成(自工会と相談して進める)。
- ② 共通構造部(多仕様自動車)型式指定制度に関する取り組み

- ・ 課題点の整理、関係機関(本省、機構審査部、機構検査部)への相談。
- ・ 通達(国自審第1968号)に基づく新型⇒多仕様自動車への移行申請を実施

### ③ CS(サイバーセキュリティ)、SU(ソフトウェアアップデート)法規対応の取り組み

- ・ Oカテゴリ(トレーラ)にも適用となるか否かJASICの会合等を通じ情報収集を継続。
- ・ 適用となった場合、対応方法を共有していくこととする。

### ④ R4に関する取り組み

- ・ 2020年6月以降登録の車両から適用される上での問題点の共有化と解決。

### ⑤ JASIC(自動車基準認証国際化研究センター)の活動への参画

- ・ ブレーキ分科会。
- ・ 後退警報規制化対応国内ワーキング。
- ・ CS、SU国内対応ワーキング(上記③項)。
- ・ R141(TPMSタイヤ空気圧監視装置)、R142(タイヤ取付け)。

### ⑥ JASO(自動車技術会)活動への参画

- ・ ビークルダイナミクス部会(ブレーキ性能分科会含む)。
- ・ 車体部会(大型車連結装置分科会)(都度)。

### (2) 環境への取り組みとして

- ⑦ 環境基準適合ラベル(通称:ホワイトラベル)、新環境基準適合ラベル(通称:ゴールドラベル)取得の推進を計画に沿って実施していく。

### (3) 他団体との情報交換として

#### ⑧ 国交省、自工会などとの連携

- ・ 独立行政法人自動車技術総合機構:検査官研修会。
- ・ 交通安全環境研究所:自動車認証審査部[三鷹](都度)。
- ・ 検査部検査課[四谷](都度)。
- ・ 一般社団法人日本自動車工業会:大型車部会トラクタ分科会(都度)。

### ⑨ 自動車技術統合機構検査官研修会への講師派遣:サービス委員会と連携した対応

### 3) サービス委員会

- ① 点検整備の必要性を顧客に展開・周知する活動の継続・充実
  - ・ 全日本トラック協会と連携した全国の各トラック協会での「安全講演」を通しての周知、啓発活動実施。講演内容も更に見やすくわかりやすいレベルに向上。
- ② トレーラ定期点検整備の手引き:統合に向けた修正作業完了
- ③ 自動車技術統合機構検査官研修会への講師派遣:技術委員会と連携し対応(7/14、10/27、12/22)
- ④ 自然災害によるトレーラ水没後の整備(特に制動装置、電装部品)について資料作成及びユーザーへの周知活動

⑤トレーラ部会工場見学会の計画・立案(11月予定)

#### 4)製品安全委員会

##### ①自動車整備標準作業点数表」掲載を受けて周知啓発活動

- ・日整連発行の「自動車整備標準作業点数表」への掲載を受けて、本点数表を広く周知するための啓発活動を行う。整備事業者による有効活用を図るためには、特にメーカー指定点検の普及が目標となり、使用者共に本点検の重要性を理解いただくことを重点項目とする。

##### ②「自動車点検分解整備記録簿」の周知・改善活動

- ・2019年度に実施した「自動車点検分解整備記録簿」(以下記録簿)の使用実態を把握するアンケート調査において受領した貴重な意見を活用し、現行の記録簿に対する課題を把握し、改善及び周知を図る。

また、運用面の課題把握のため、整備工場への出張調査等も計画する。

##### ③適正な交換部品の使用 ～トレーラの安全運行へ～

- ・引き続き純正部品に対する安心・安全への導きや、啓発を検討する。

#### 5)業務委員会

##### ①トレーラ輸送による輸送効率向上を輸送事業者へPR活動

- ・2019年度に引き続き、「セミトレーラ、フルトレーラ輸送による輸送効率向上」を全国トラック協会で講演する。諸元等の比較や運用時のメリット・留意点等に加え、直近のトレーラに関する法改正も紹介し、実務に資する内容としている。

##### ②ABS/ROC(横転抑制装置)の安全性への有効性のPR活動

- ・上記①と同時に開催。実車実験動画の上映を通してABSやROCの安全性の有効性をPRする。

##### ③トレーラのPR活動

- ・車工会や各社のホームページからYouTubeにリンクさせてABS/ROCの実車実験動画を視聴出来る様にし、トレーラの最新機能と安全への取組みを周知させる。

またYouTube掲載にあたり、著作権対応のため、一部を再編集する。

##### ④全日本トラック協会や官公庁との連携強化

- ・全日本トラック協会と情報交換等を行なうことを通じ、補助金事業や制度変更等を早期に情報入手し、会員に情報を展開する。

##### ⑤国内生産需要予測を部会として検討・共有し、プレスリリースを発表。(3月中旬)

#### 6)車両運搬用トラクタ委員会

- ・車両運搬トレーラとトラクタの組合せ自主審査(随時)

## バス部会

### 1.現状認識

バス部会の2019年度の生産台数(含むふそう向け)は、国内大中型バス4,890台(前年度比101.3%)、国内小型バス8,962台(同98.7%)、輸出小型バス69,008台(同92.6%)である。

#### <市場動向>

- ・バス輸送人員は、2018年度46.46億人(前年度比100.1%)で2011年度を底に増加傾向。  
内訳は、乗合バス43.48億人(同100.1%)、貸切バス2.98億人(同100.2%)。
- ・平均使用年数は、2018年度18.36年(前年度比+0.67年)で2年連続増加。  
内訳は、大中型バス20.79年(同+0.14年)、小型バス16.49年(同+0.54年)。
- ・バス全体の保有台数は、2018年度末で232,992台の前年度比-550台と6年ぶりに減少。
- ・バスのバリアフリー化状況は、ノンステップバス(2020年度目標70%)は2018年度58.8%(前年度比+2.8)、リフト付バス(2020年度目標25%)は2018年度5.1%(同-0.1)と特にリフト付バス化の進展は遅い。

2020年度の大中型バスの生産見通しについては、新型コロナウイルス感染拡大による観光需要の減少及び、買い替え需要等が一巡したことや、ドライバー不足などの社会環境の変化等により前年度を下回るものと見込まれる。

### 2.活動方針

国内バス市場は大幅な市場拡大を見込めないが、バリアフリーをより一層身近なものにする対応、軽井沢スキー事故を受けたハード面の安全対策への対応や、訪日外国人旅行者へ対応したバス車体を、より効率的に設計／製造する必要がある。

また、会員各社に加え、日本自動車工業会、日本バス協会等の関連団体との連携強化を進め、安全性と品質の更なる向上に向けた活動を積極的に推進する。

### 3.活動計画

#### 1)部会

- (1)会員工場、異業種工場、施設見学会の開催

#### 2)技術委員会

- (1)規格化／標準化の推進

##### ①JABIA規格の改正(2件)

- ・バス用運賃表示器(B1003)、バス用乗降中表示器(B1008)。

##### ②規格化・標準化に向けた調査研究

- ・JABIA規格新規制定に向け後方視界確保装置(バックカメラ、モニター)の性能要件調査(3年計画の2年目)。

##### ③バス車体規格集2021年版発刊に向けた準備(3年計画の2年目)

- ④バス車体塗色見本帳2022年発行に向けた準備(2年計画の1年目)
- ⑤国際基準との調和活動へ参画
  - ・衝撃吸収分科会、一般安全分科会(JASIC主催)。
  - ・車体部会(自技会主催)。

#### (2) 共同研究／調査活動

- ・日本自動車工業会バス分科会と共同研究への参画「バス車体強度(R66)国内認証方法」、「路線バスの車室内安全実態調査」。

#### (3) 法規／安全対策関係への対応

- ・構造部型式指定制度への対応。

#### (4) 当会会員の塗装技術の向上

- ・当会会員向け塗装技術勉強会の実施。

### 3) 業務委員会

- (1) 生産台数情報とバス市場動向の共有

## 小型部会

### 1. 現状認識

2019年度の実車総需要は、504万台・前年度比95.8%と4年連続の500万台を超えたものの、豪雨、台風などの大規模自然災害や消費税アップの影響により前年度を下回った。内訳は、登録車が318万台・同95.4%、軽四輪車が186万台・同96.5%。

そうした中、2019年度の実車部会会員の生産台数は、203万台・前年度比99.0%と前年度を若干下回った。

小型部会員の生産車はほとんどが委託生産車であり、車体工業会の主要活動である架装物に係る法規対応や工業会規格作成等の一体的活動の推進は難しい面がある。しかしながら、企業規模が大きくなり、当工業会への影響も大きいため、環境対応、安全衛生活動及び技能系社員の人材育成など、色々な面で指導的役割を果たして行く必要がある。

### 2. 活動方針

部会員の連携を密にするとともに、車体工業会全体運営に積極的に協力し車体業界の発展に寄与していく。また、会員間の工場見学会や異業種との交流を進め会員相互の情報交換の場を提供する。

### 3. 活動計画

#### 1) 部会

- ① 工場見学会
  - ・ 会員間工場見学、異業種見学等を行い、会員相互の研鑽、技術交流を図る。
- ② その他
  - ・ 本部委員会活動への参画と活動推進／協力。
  - ・ 官公庁や他団体の講演会、展示会等の部会員への積極的案内。

#### 2) 技術委員会

- ① 見学会等部会イベントの計画立案
- ② 委員相互の交流

### 3) 経営企画部門委員会

- ① 経営に関わる動向、環境の共有化
- ② 委員相互の交流

## 資材部会

### 1. 現状認識

当会会員の2019年度の実車台数は、国内大中型バス(含むふそう向け)国内大中型バス4,890台(前年度比101.3%)、平ボデータックはシャシメーカー標準車を除く当会特有車は15,563台(同93.3%)と減少し、バン車も80,484台(同94.4%)と減少となり、国内での非量産車は若干の減少傾向となった。

2020年度の実車需要は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策による国内緊急事態宣言に伴う観光需要の減少等でバスの需要減少、その他ドライバー不足や生産人口の減少、長時間労働の抑制等社会環境変化により長期的には国内輸送量の増加を見込むことは難しい状況である。

2019年度の実車部会会員の異動状況は2社入会、2社退会で100社を継続した。事業活動では、バス部会、トラック部会等各部会と調査研究事業等で連携して事業を推進、本部の総会、会員大会や講演会等の各種行事へも積極的に参画し会員間交流、情報交換を深めた。

2020年度も各部会との共同事業、共通課題に取り組み部会活動をより充実したものとしていく。

### 2. 活動方針

本部活動方針に沿って技術的活動を充実させていく(調査研究、規格化、環境対応等)。特に環境負荷物質の使用削減に関しては部品供給側として活動支援していく。また従来からの「ビジネスネットワーク」活動を基本に、部会員にメリットのある魅力ある活動を推進し、部会活動の活性化を図っていく。

### 3. 活動計画

#### 1) 部会

- (1) 他部会との交流・共同事業の推進(本部活動や他部会活動に積極的に参画)
- (2) 部会員相互の交流と研修のための講演会・見学会・視察を実施
- (3) 環境負荷物質フリー製品供給の徹底
- (4) 市場動向、環境・安全問題・会員支援に係る情報提供の充実化
- (5) 機関誌やホームページを利用して部会活動並びに会員会社のPR活動推進

#### 2) 分科会・グループ

- (1) 同業種間の各種情報交換、共有化及び課題の収集と対応
- (2) 専門家としての他部会要請への対応と他部会への積極的な働きかけ実施
- (3) 相互研鑽のため会社相互訪問あるいは異業種訪問等の実施(分科会毎に実施)
- (4) 部会内調査研究事業の推進

## ■「環境基準・新環境基準適合ラベル」の適用規格改定

環境委員会(委員長・永田雅久・トヨタ自動車東日本(株)専務取締役)では、環境にやさしい車体の普及促進のため、リサイクルの促進を目的に「環境基準適合ラベル」を2004年度に制定、「新環境基準適合ラベル」を2011年度から追加制定した。この2種類の環境適合ラベルの運用開始に伴い、JABIA規格を制定し活動を推進しておりますが、2020年4月に、記載内容をより解りやすくするため改正した。



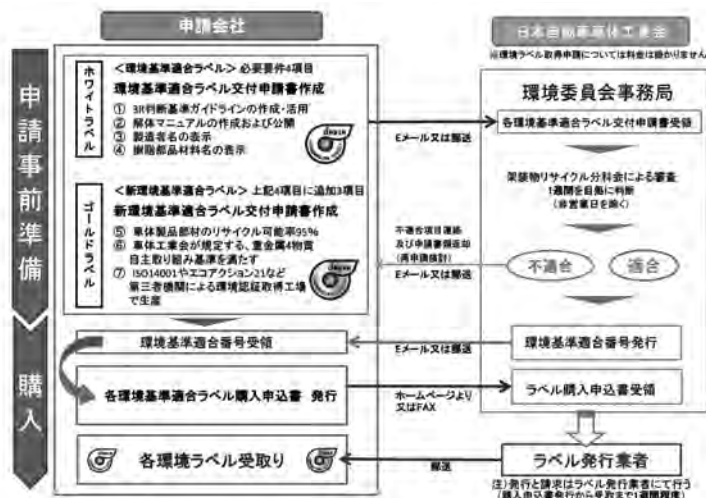
### 【主な改定点】

1. トレーラも対象範囲として明記した。
2. 目次を追加し、検索しやすくした。
3. 環境基準適合ラベル及び新環境基準適合ラベルの基準を別表としてまとめた。

### 【追加作成】

ラベルの申請及び購入フローを作成し全体の流れを解りやすくした。

### 【各環境基準適合ラベル申請及び購入フロー】



<詳しくは以下を参照>

<https://www.jabia.or.jp/environment/activity/#section02>



## ■ホームページリニューアルのお知らせ

広報委員会(委員長・永田雅久・トヨタ自動車東日本(株)専務取締役)では、2019年度事業計画活動の一環として4月1日よりホームページのリニューアルを実施した。

### <主な変更内容>

- ・デザインの一新、見やすさの改善
- ・スマートホン、タブレットへの対応
- ・検索しやすさの改善
  - ①サイト内情報の整理とそれに伴うサイトマップの変更
  - ②サイト内検索(キーワード検索)機能の追加 等
- ・「車体工業会ってなに?」ページの新設  
一般の方にも車体工業会の活動内容を簡単にわかりやすく伝えるページを追加
- ・ラベル・書籍等の購入メニューの名称変更(JABIA SHOP)とユーザビリティ向上及びシステム化による管理運営の向上

### <お願い>

- ・会員の皆様の使い勝手向上、有用情報の提供のため、ご意見、ご要望等ございましたら、広報委員、事務局又はホームページのお問い合わせを通じてフィードバックをお願いいたします。
- ・リニューアルに伴い、トップページのURL (<https://www.jabia.or.jp/>) は変わりませんが、一部のページのURL が変更になるものがあります。当面の間は、旧URL から新しいホームページに自動的に移動しますが、約半年でリンク切れとなります。  
各社のホームページや個人のお気に入り登録されているURL は随時変更をお願いいたします。

### <トップページURL>

<https://www.jabia.or.jp/>



車体工業会ってなに?

## 部会だより

NEWS+FLASH

### ■2020年度部会総会を书面審議で実施

2020年度の部会総括会議(部会総会)は书面審議で、すべて終了し、2019年度事業報告、収支決算報告、2020年度活動計画案、収支予算案及び役員体制案が承認された。

| 部会     | 部会長   | 開催日      | 場所      |
|--------|-------|----------|---------|
| 特装部会   | 高橋部会長 | 4月16日(木) | 書面審議に変更 |
| 特種部会   | 青地部会長 | 4月16日(木) | 書面審議に変更 |
| トラック部会 | 山田部会長 | 4月9日(木)  | 書面審議に変更 |
| バン部会   | 屋間部会長 | 4月21日(火) | 書面審議に変更 |
| トレーラ部会 | 辻部会長  | 4月17日(金) | 書面審議に変更 |
| バス部会   | 山中部会長 | —        | 書面審議    |
| 小型部会   | 増井部会長 | 4月16日(木) | 書面審議に変更 |
| 資材部会   | 小澤部会長 | 4月24日(金) | 書面審議に変更 |

### ■2020年度トレーラ国内需要見通しを発表

トレーラ部会(部会長・辻和弘・東邦車輛(株)社長)では、2020年度のトレーラ国内需要見通しを発表した。

#### 1. 2019年度トレーラ需要見込み

2019年度は台風被害や消費税増税の影響で一時的な景気の減速が見られた。そのような状況でもトレーラはドライバー不足の解消対策等として、昨年比大幅な増加となった。

トレーラ生産は、バンが前年度比120%、コンテナ用は同110%、平床(あおり付き含む)・低床は同96%という結果になった。その他のトレーラは前年度比100%であった。

#### 2. 2020年度トレーラ需要見通し

米中貿易摩擦歯止めによる輸出入持ち直し、原油価格安定等のプラス要因に対し、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のマイナス影響が予測困難な状況ではあるが、トレーラメーカー各社受注残もあり、総需要9,400台、2019年度並みと見込む。

<詳細は以下を参照>

<https://www.jabia.or.jp/cms/wp-content/uploads/2020/04/News-Release20200312trailer.pdf>



## トレーラ部会

### ■各都道府県トラック協会におけるトレーラの適正な使用に係る研修の実施

トレーラ部会(部会長・辻和弘・東邦車輛(株)社長)では、トレーラの安全な使用を目的に各都道府県のトラック協会と安全に関する研修を2015年度より開始、2019年度は、21か所で実施した。

本研修は「トレーラ日常点検」、「トレーラ定期点検整備のすすめ」の2種類のビデオを用いて、「トレーラの火災事故防止のための日常点検及び定期点検整備の重要性」、「安全装置周知(ABS・ROC)」、「トレーラ輸送による輸送効率向上」をテーマに実施している。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、今後開催計画を策定予定。



## 支部だより

NEWS+FLASH

### ■2020年度部会総会を书面審議で実施

| 支部    | 支部長                         | 開催日      | 場所      |
|-------|-----------------------------|----------|---------|
| 北海道支部 | 竹澤 靖<br>札幌ボデー工業(株) 常務取締役    | 4月23日(木) | 書面審議に変更 |
| 東北支部  | 鈴木 勇人<br>仙台鈴木自動車工業(株) 取締役社長 | 4月17日(金) | 書面審議に変更 |
| 新潟支部  | 北村 守<br>(資)中北車体工作所 代表社員     | 4月24日(金) | 書面審議に変更 |
| 関東支部  | 矢島 廣一<br>埼玉自動車工業(株) 取締役社長   | 4月20日(月) | 書面審議に変更 |
| 中部支部  | 景井 啓之<br>(株)東海特装車 取締役社長     | 5月15日(金) | 書面審議に変更 |
| 近畿支部  | 須河 進一<br>須河車体(株) 取締役社長      | 4月21日(火) | 書面審議に変更 |
| 中国支部  | 松井 勇二<br>フェニックス工業(株) 取締役社長  | 5月14日(木) | 書面審議に変更 |
| 四国支部  | 池浦 雅彦<br>(株)タダノ 執行役員        | 5月15日(金) | 書面審議に変更 |
| 九州支部  | 矢野 彰一<br>(株)矢野特殊自動車 取締役社長   | 5月12日(火) | 書面審議に変更 |

### 2020年度不正改造車を排除する運動を実施

国土交通省

自動車の不正改造が社会的な問題となっており、生活の安全を確保するためにも、その排除が喫緊の課題となっている。国土交通省及び当会を含む自動車関係33団体が構成する「不正改造防止推進協議会」が中心となって、内閣府、警察庁、農林水産省、経済産業省及び環境省の後援並びに自動車技術総合機構、軽自動車検査協会の協力のもと、不正改造を排除し、車両の安全確保及び環境保全を図ることにより、国民の安全、安心を確実に確保していくため、2020年度も「不正改造車を排除する運動」を全国的に展開する。

今年度の強化月間は、北陸信越運輸局7月、沖縄総合事務局10月を除き、6月となっている。

当会では、強化月間に向けてポスター、チラシを配布し、本部・支部が連携して、昨年同様の活動を進めるので、会員の皆様は不正改造防止について理解を深め、その排除に協力願いたい。

**不正改造は犯罪です!!**

不正改造車の使用者  
整備命令の発令

不正改造を実施した者  
6カ月以下の懲役又は  
30万円以下の罰金

STOP! THE不正改造

不正改造車を見つけたら、直轄ナンバー、不正改造の内容等の情報をお寄せ下さい。

不正改造車・違法改造車 通報先

北海道庁 011-290-2752 青森県庁 017-892-8042 岩手県庁 019-802-6783  
 宮城県庁 022-791-7534 秋田県庁 018-852-8044 山形県庁 023-472-2537  
 福島県庁 024-285-9155 茨城県庁 06-6949-6453 栃木県庁 098-866-1837  
 群馬県庁 045-211-7254 埼玉県庁 048-228-9142 千葉県庁 043-228-9142

http://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha/tenken/seibi/husekaizou/h2/h2-3/ 携帯、スマートフォンの方はコチラから→

国土交通省、不正改造防止推進協議会、経産省、内閣府、警察庁、農林水産省、経済産業省、環境省、国土交通省、国土交通省自動車技術総合機構、軽自動車検査協会

www.tenken-seibi.com

### 国土交通省組織令の一部改正等について

国土交通省

#### 【概要】

国土交通省自動車局に置く課が以下のとおり変更された。

| 新        | 旧        |
|----------|----------|
| 総務課      | 総務課      |
| 安全政策課    | 安全政策課    |
| 技術・環境政策課 | 環境政策課    |
| 自動車情報課   | 技術政策課    |
| 旅客課      | 自動車情報課   |
| 貨物課      | 旅客課      |
| 安全・環境基準課 | 貨物課      |
| 審査・リコール課 | 審査・リコール課 |
| 整備課      | 整備課      |

#### 【スケジュール】

公布：2020年3月30日 施行：2020年4月1日

### 「自動車検査業務等実施要領について」の一部改正等について

国土交通省

#### 【概要】

- ①「自動車検査情報システム」と「自動車分解整備認証システム」を統合した新システムを「自動車検査・整備情報システム」と定めた。
- ②車体の形状に「農耕作業用トレーラ」を追加した。
- ③自動車検査証の備考欄に「点検整備記録簿記載なし」と記載する自動車（前面ガラスのない自動車を除く）に交付される検査標章（車検に合格した時に交付されるステッカー）の裏面に、「法廷点検未実施（車検時）」と記載する。

#### 【スケジュール】

公布：2020年2月28日 施行：2020年4月1日

### 自動運行装置を備える自動車の 外向け表示について

国土交通省

#### 【概要】

自動運行装置を備える自動車に表示されるステッカーについて情報提供と周知依頼があった。

#### 【スケジュール】

公布・施行：2020年3月31日

## 「標準仕様ユニバーサルデザインタクシー 認定要領」の一部改正について

国土交通省

### 【概要】

スロープの耐荷重を300kgに引き上げた。

### 【スケジュール】

公布：2020年3月31日 施行：2020年4月1日

## 一般乗用旅客自動車運送事業(福祉輸送事業限定 及びハイヤー事業限定を除く。)におけるユニバー サルデザインタクシー車両の車体表示について

国土交通省

### 【概要】

標準仕様ユニバーサルデザインタクシーの認定要領の改正に伴い、改正後の認定基準に適合したタクシーに表示するマークを定めた。

### 【スケジュール】

公布：2020年3月31日 施行：2020年4月1日

## 保安基準等の一部改正について

国土交通省

### 【概要】

自動運転車の開発・実用化・普及を図るため、以下の改正を行った。

#### (1) 道路運送車両の保安基準及び同告示等

- ①自動運行装置の機能、性能等に関する基準を定めた。
- ②自動運行装置付き自動車の電気装置について、サイバーセキュリティに関する性能等を定めた。
- ③自動運行装置付き自動車の電気装置に組み込まれたプログラムについて、適切な改変(アップデート)を確保できるものとして性能に関する基準を定めた。

#### (2) 道路運送車両法施行規則

- ①走行環境条件に関する基準を定めた。

#### (3) 装置型式指定規則

- ①型式指定の対象となる特定装置に「自動運行装置」等を追加した。

#### (4) 道路運送車両法関係手数料規則

- ①自動運行装置等の保安基準適合性に関し(独)自動車技術総合機構に納付すべき手数料を定めた。

#### (5) その他

### 【スケジュール】

公布：2020年3月31日 施行：2020年4月1日

## 自動車型式認証実施要領等の一部改正について

国土交通省

### 【概要】

#### (1) 自動車型式指定実施要領

- ①自動運行装置を備えた自動車に係る申請書面として、サイバーセキュリティ業務管理システム適合証明書、当該装置の機能の概要を記載した書面及び点検整備方式(特定整備事業者に対し自動車製作者等が提供しなければならない点検整備に必要な情報に関するものに限る)の掲載場所を記載した書面を規定した。
- ②自動運行装置搭載有無に応じ類別を分けるほか、諸元表にその旨記載することとする。
- ③自動運行装置を完成検査の実施項目に追加した。
- ④点検整備方式の電磁的方法による提供方法を規定した。
- ⑤燃料電池自動車の燃料消費率に関する記載要領を規定した。
- ⑥輸入自動車の試験成績書を提出する場合に認められる外国の試験方法として FMVSS 305(感電保護に係る後面衝突試験)を追加した。
- ⑦天災により損傷を受けた未登録車の修復後における完成検査の再検査については、実施方法や検査結果の保存を前提に、当該再検査の実施方法等に関する審査・リコール課長の事前承認を不要とする。
- ⑧その他所要の改正を行った。

#### (2) 輸入自動車特別取扱制度

上記(1)①、②及び⑥に加え、以下の改正を行った。

- ①自動運行装置を備えた自動車に係る申請書面として、当該装置に関する外国自動車試験機関、公的試験機関又は自動車製作者が発行した試験成績書(交通安全環境研究所が定める要件を満たすものに限る)を規定した。

- ②その他所要の改正を行った。

#### (3) 装置型式指定実施要領

上記(1)①(業務管理システム適合証明書に限る)に加え、以下の改正を行った。

- ①自動運行装置に係る型式指定において、当該装置を備えた自動車を提示するほか、その指定の基準は保安基準第48条第3項に定めるものとする。
- ②その他所要の改正を行う。

#### (4) 共通構造部型式指定実施要領(UN-R0関係を除く)

上記(1)①から⑤まで(③を除く)の改正に加え、以下の改正を行う。

①申請可能な特定共通構造部の範囲に自動運行装置を追加した。

②その他所要の改正を行う。

#### 【スケジュール】

公布：2020年3月31日 施行：2020年4月1日

### 走行環境条件の付与の実施要領について

#### 国土交通省

#### 【概要】

自動運行装置を備える自動車の環境条件の付与に関する実施要領を定めた。

#### 【スケジュール】

公布：2020年3月31日 施行：2020年4月1日

### 自動車検査業務等実施要領の一部改正について

#### 国土交通省

#### 【概要】

自動運行装置を備える自動車の自動車検査証に記載する文言を定めた。

#### 【スケジュール】

公布：2020年3月31日 施行：2020年4月1日

### 自動車検査業務等実施要領の一部改正について

#### 国土交通省

#### 【概要】

①基準緩和の対象に「手動による運転時は通常のかじ取装置、操作装置等と異なる特別な装置で操作する自動車」を追加した。

②その他

#### 【スケジュール】

公布：2020年3月31日 施行：2020年4月1日

### 審査事務規程の一部改正について(第28次)

#### 自動車技術総合機構

#### 【概要】

①敷地等における秩序維持等のため、受検者が遵守すべき事項を追加した。

②「その他の灯火の制限」に関する審査において、アンサーバック機能を有する灯火(原動機を停止した状態の自動車において乗降口に備える扉の施錠又は解錠と連動して作動する灯火)の審査を省略できることを明記した。

#### 【スケジュール】

公布：2020年3月31日 施行：2020年4月1日

### 審査事務規程の一部改正について(第29次)

#### 自動車技術総合機構

#### 【概要】

1. TRIAS新規追加及び一部改正

(1) 自動運行装置関係の基準導入に伴う新規追加(5項目)

① TRIAS 17(2)-J120-01

サイバーセキュリティシステム試験

② TRIAS 17(2)-J121-01

プログラム等改変システム試験

③ TRIAS 48-J122-01

高速道路等における低速自動運行装置試験

④ TRIAS 48-J123-01 作動状態記録装置試験

⑤ TRIAS 99-023-01

サイバーセキュリティ業務管理システム試験

(2) UN 規則・細目告示等の改正に伴う新規追加(3項目)

① TRIAS 08-008-01

燃料消費率試験(圧縮水素燃料電池自動車)

② TRIAS 12-R152-01 乗用車等の衝突被害軽減制

動制御装置試験(協定規則第152号)

③ TRIAS 18-R026-01

外部突起試験(協定規則第26号)

(3) UN 規則・細目告示等の改正に伴う一部改正(7項目)

① TRIAS 02-001-01 諸元測定試験

② TRIAS 08-002-03 燃料消費率試験(WLTC モード)

③ TRIAS 09-R030-01

乗用車用空気入りタイヤ試験(協定規則第30号)

④ TRIAS 09-R064-02

応急用予備走行装置試験(協定規則第64号)

⑤ TRIAS 11-R079-03

かじ取装置試験(協定規則第79号)

⑥ TRIAS 12-R078-03

二輪車等の制動装置試験(協定規則第78号)

⑦ TRIAS 43(7)-R138-02

車両接近通報装置試験(協定規則第138号)

(4) JIVAS-S の取込のための一部改正(11項目)

①～⑪ 最大安定傾斜角度試験、最小回転半径試験等

(5) その他、利便性の向上等のための一部改正(4項目)

① TRIAS 10-R060-01 二輪自動車の操作装置及び

表示装置試験(協定規則第60号)

② TRIAS 18(2)-R058(1)-02

突入防止装置(協定規則第58号(単品))

③ TRIAS 18(2)-R058(2)-03

突入防止装置(協定規則第58号(車両))

④ TRIAS 43(8)-R144-01

事故自動緊急通報装置試験(協定規則第144号)

2. 別表 2(2-4 関係)の一部改正

(1) 外国の試験機関を追加した。

(試験項目)

① 諸元測定試験

② 電気自動車、電気式ハイブリッド自動車及び燃料電池  
自動車の衝突後の高電圧からの乗員保護試験

(試験機関)

① IDIADA(西)

(2) 内燃機関のみを原動機とする自動車に限る制限を解  
除する。

(試験項目)

① 燃料消費率試験(WLTC モード)

② 軽・中量車排出ガス試験(WLTC モード)

(試験機関)

① UTAC(仏)

【スケジュール】

公布・施行：2020年4月2日

## 新型コロナウイルス感染症対策について

経済産業省・国土交通省

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関する情報は、当会ホームページや電子メールで、2月より①感染予防策について(14件)②経営支援策について(4件)③就職、採用、雇用維持について(3件)④自動車工業4団体による支援(1件)の情報を発信した。それぞれの最新状況(5/29現在)についてまとめる。

① 感染予防策について

・ 感染予防対策ガイドライン

新型コロナウイルス感染症の感染症予防ガイドラインの展開とそれに基づく取組みの徹底について、木村会長からの依頼文を展開した。

本ガイドラインに示された「感染防止のための基本的な考え方」と「講じるべき具体的な対策」を踏まえ、創意工夫を図りながら、新型コロナウイルス感染症の感染予防に取り組むとともに、社会基盤としての役割を果たしていただきたい。

【詳しくは以下を参照】

<木村会長依頼文>

<https://www.jabia.or.jp/cms/wp-content/uploads/2020/05/送付状%EF%BC%89新型コロナウイルス感染予防対策ガイドラインについて.pdf>



<ガイドライン>

<https://www.jabia.or.jp/cms/wp-content/uploads/2020/05/オフィスにおける新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン.pdf>



<https://www.jabia.or.jp/cms/wp-content/uploads/2020/05/製造事業場における新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン.pdf>



・ 新しい生活様式

5月4日、新型コロナウイルス感染症専門家会議からの提言を踏まえ、新型コロナウイルス感染症を想定した「新しい生活様式」の実践例が提示された。従来の生活では考慮しなかったような場においても、感染予防のために一人ひとりが実践していく必要がある。

<詳しくは、以下を参照>

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431\\_newlifestyle.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html)



手洗い・咳エチケット

3つの密の回避



【出典：首相官邸HPより】

## ② 経営支援策

### ・ 持続化給付金

感染症拡大により、特に大きな影響を受ける事業者に対して、事業の継続を下支えし、再起の糧とするための事業全般に広く使える給付金。

中小法人等は200万円、個人事業者等は100万円。

※ただし、昨年1年間の売上からの減少分が上限。

<詳しくは、以下を参照>

<https://www.meti.go.jp/covid-19/pdf/kyufukin.pdf>



### ・ 資金繰り支援

日本政策金融公庫や商工中金の新型コロナウイルス感染症特別貸付や、信用保証協会のセーフティネット保証、危機関連保証等あり、詳しくは以下を参照。

[https://www.meti.go.jp/covid-19/pdf/shikinguri\\_list.pdf](https://www.meti.go.jp/covid-19/pdf/shikinguri_list.pdf)



## ③ 就職・採用・雇用維持

### 【雇用調整助成金】

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける事業主を対象に雇用調整助成金の特例を拡充した。具体的には、助成率は中小企業が2/3から4/5へ、大企業が1/2から2/3へ引き上げや要件を満たした場合に助成率の上乗せ等が2020年4月1日から6月30日まで(緊急対応期間)の休業等に適用される。

<詳しくは、以下を参照>

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/koyou/kyufukin/pageL07.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/kyufukin/pageL07.html)



### 【雇用維持等に対する配慮】

急激な事業変動の影響を受けやすい有期契約労働者、パートタイム労働者及び派遣労働者並びに新卒の内定者の方々等の雇用維持等に関して適切な配慮を行うよう要請があった。

<詳しくは、以下を参照>

<https://www.jabia.or.jp/news/8959/>



## ④ 自動車工業4団体による支援

### ・ 4団体※合同会見(4月9日)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が止まらない状況下、日本がこの危機を乗り越えていくため、自動車業界としてどのような貢献ができるか、検討中のものも含めて会見を実施し、当会からは木村会長が出席した。

※4団体: 日本自動車工業会、日本自動車部品工業会、日本自動車車体工業会、日本自動車機械器具工業会

<詳しくは、以下を参照>

<https://www.jabia.or.jp/news/8349/>



### ・ 自動車工業4団体による支援状況

取り組み内容を掲載したホームページを立ち上げた。(自工会ホームページ内)今後、取り組みの幅を順次拡大し、進捗を随時発信予定。

<詳しくは、以下を参照>

<http://www.jama.or.jp/covid19/>



## 2020年度工業統計調査について

### 経済産業省

経済産業省・総務省では、工業統計調査を2020年6月1日現在で実施する。

本調査は、製造業を営む事業所を対象に、1年間の生産活動に伴う製造品の出荷額、原材料使用額などを調査し、製造業の実態を明らかにすることを目的としている。



調査を依頼する製造事業所には、本年5月中旬から6月にかけて、調査票を統計調査員が持参するか、又は国から直接郵送するので調査にご協力を願いたい。

また、同時に実施している経済構造実態調査の対象事業所は、両調査に回答をお願いします。

<詳細は、以下を参照>

[http://www.jwes.or.jp/mt/etc/info/pdf/keisan\\_20200325.pdf](http://www.jwes.or.jp/mt/etc/info/pdf/keisan_20200325.pdf)



## 2020年度版「中小企業施策利用ガイドブック」を発行

### 経済産業省・中小企業庁

中小企業庁は、2020年度版「中小企業施策利用ガイドブック」を発行した。

経営改善・資金繰り支援対策、震災対策など、中小企業が施策を利用する際の手引書として、各支援制度の概要を紹介している。



## 【使い方】

「目次」では、中小企業施策を以下の項目に分類、項目毎に利用できる施策が一覧できる。

1. 経営サポート：技術力の強化、創業・ベンチャー支援、経営革新支援、新たな事業活動支援、知的財産支援、再生支援、雇用・人材支援、海外展開支援、取引・官公需支援、経営安定支援、小規模企業支援
2. 金融サポート（融資制度、保証制度）
3. 財務サポート：税制、会計、事業承継
4. 商業・地域サポート：商業・物流支援
5. 分野別サポート
6. 相談・情報提供：中小企業支援センターなど

また、「インデックス」では、利用者のニーズにあわせて利用できる施策を支援制度別に探すことができる。

本ガイドブックは、各地域の経済産業局、商工会、商工会議所、中小企業団体中央会、中小企業支援センターなどでも入手（無料）可能。また、中小企業庁ホームページにおいても、閲覧・ダウンロードすることが可能。

公表日：2020年4月

<詳細は、以下を参照>

<https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/g-book/2020/index.html>



## 2019年度「中小企業白書」「小規模企業白書」を公表

### 経済産業省・中小企業庁

中小企業庁では、「2019年度中小企業の動向」及び「2020年度中小企業施策」（中小企業白書）、並びに「2019年度小規模企業の動向」及び「2020年度小規模企業施策」（小規模企業白書）を取りまとめ、公表した。

2020年版白書では、中小企業・小規模事業者に期待される「役割・機能」や、それぞれが生み出す「価値」に着目し、経済的な付加価値の増大や、地域の安定・雇用維持に資する取り組みを調査・分析した。また、新型コロナウイルス感染症の影響や、中小企業・小規模事業者における具体的な対応事例等についても掲載した。

## 【2020年版「中小企業白書」のポイント】

### 第1部 2019年度の中小企業の動向

- ・ 企業の新陳代謝が進む一方で、生産性の高い企業の廃業も。
- ・ 中小企業の目指す姿は多様であり、期待される役割や機能を意識した支援が重要。

### 第2部 新たな価値を生み出す中小企業

- ・ 賃上げと利益拡大の両立を図るためには、付加価値の増大が不可欠。
- ・ 製品・サービスの差別化や新事業展開により、新たな価値を生み出すことが重要。
- ・ 異業種企業や大学との連携、人材への投資が、中小企業の可能性を拡大。
- ・ 製品・サービスの優位性を顧客に伝える取組や、取引条件の見直しが重要。

公表日：2020年4月

<詳細は、以下を参照>

<https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/index.html>



## 「安衛法施行令等の改正」溶接ヒューム等に関する特化測等の改正について

### 厚生労働省

厚生労働省から、労働安全衛生法施行令の一部を改正する政令（令和2年政令第148号）、特定化学物質障害予防規則及び作業環境測定法施行規則の一部を改正する省令（令和2年厚生労働省令第89号）及び作業環境評価基準等の一部を改正する告示（令和2年厚生労働省告示第192号）が、2020年4月22日に公布及び告示された。

## 【改正概要】

### <改正趣旨>

「溶接ヒューム」及び「塩基性酸化マンガン」について、労働者に神経障害等の健康障害を及ぼすおそれがあることが明らかになったことから、労働者の当該物質へのばく露防止措置や健康管理を推進するため、所要の改正を行った。

### <改正政令概要>

#### ・ 特定化学物質の追加

特定化学物質（第2類物質）に、「溶接ヒューム」を追加するとともに、「マンガン及びその化合物（塩基性酸化マンガンを除く。）」の「（塩基性酸化マンガンを除く。）」を削除した。この結果、溶接ヒューム及び塩基性酸化マンガンのに係る作業又は業務について、新たに作業主任者の選任（法第14条関係）、作業環境測定の実施（法第65条関係。塩基性酸化マンガンのに係る業務に限る。）及び有害な業務に現に従事する労働者に対する健康診断の実施（法第66条第2項前段関係）が必要となる。

### <改正省令概要>

#### (1) 特化則（溶接ヒュームへのばく露防止）関係

- ・ 金属をアーク溶接する作業、アークを用いて金属を溶断、又はガウジングする作業、その他の溶接ヒュームを

製造、又は取り扱う作業(以下「金属アーク溶接等作業」という。)を行う屋内作業場については、当該金属アーク溶接等作業に係る溶接ヒュームを減少させるため、全体換気装置による換気の実施又はこれと同等以上の措置を講じることを義務付けた。

- ・金属アーク溶接等作業を継続して行う屋内作業場において、新たな金属アーク溶接等作業の方法を採用しようとするとき、又は当該作業の方法を変更しようとするときは、あらかじめ、当該金属アーク溶接等作業に従事する労働者の身体に装着する試料採取機器等を用いて行う測定により、当該作業場について、空気中の溶接ヒュームの濃度を測定することを義務付けた。
- ・上記による空気中の溶接ヒュームの濃度の測定の結果に応じて、換気装置の風量の増加その他必要な措置を講じることを義務付けた。
- ・金属アーク溶接等作業に労働者を従事させるときは、当該労働者に有効な呼吸用保護具を使用させることを義務付けた。

- ・呼吸用保護具(面体を有するものに限る。)を使用させるときは、1年以内ごとに1回、定期的に呼吸用保護具が適切に装着されていることを確認し、その結果を3年間保存することを義務付けた。

#### (2)特化則(健康診断)関係

金属アーク溶接等作業に係る業務に従事する労働者について、雇入れ又は当該業務への配置換えの際及び6月以内ごとに1回、定期的に、医師による健康診断の実施を義務付けた。さらに、健康診断の結果、他覚症状が認められる者等で、医師が必要と認めるものについては、医師による追加の健康診断の実施を義務付けた。

#### <改正告示の概要>

- ・評価基準関係

管理濃度を「マンガンとして0.05mg/m<sup>3</sup>」に引き下げた。

【スケジュール】 2021年4月1日から施行

<詳細は、以下を参照>

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_09323.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_09323.html)



## 国土交通省地方運輸局

2020年5月11日現在 (敬称略)

| 局別   | 運輸局長   | 自動車技術安全部長     | 技術課長            | 整備課長<br>※整備・保安課長 | 保安・環境課長<br>※保安・環境調整官 | 管理課長<br>※管理業務調整官 |
|------|--------|---------------|-----------------|------------------|----------------------|------------------|
| 北海道  | 大高 豪太  | 千葉 順一         | 内木 義昭           | ※島津 祥悟           | ※関 伸也                | 大友 晃司            |
| 東北   | 吉田 耕一郎 | 衣本 啓介         | 齊藤 仁伸           | ※石村 仁            | ※平川 清彦               | 佐藤 雅和            |
| 北陸信越 | 板崎 龍介  | 吉田 守利         | 佐々木 昌憲          | ※唐崎 光博           | ※松嶋 龍也               | 長谷川 陽子           |
| 関東   | 吉田 晶子  | 高井 誠治         | 久手 俊彦           | 吉池 明人            | 小島 忍                 | 鷲巣 雄一            |
| 中部   | 坪井 史憲  | 林 健一          | 田中 秀一           | 飯田 克己            | 小林 貞男                | 八木 英規            |
| 近畿   | 野澤 和行  | 猶野 喬          | 山名 生也           | 田辺 剛敏            | 井倉 通孝                | 清良井 利之           |
| 中国   | 土肥 豊   | 原野 康寅         | 坂井 孝司           | ※西中 千典           | ※上本 勝幸               | 瀧川 達也            |
| 四国   | 上園 政裕  | 近藤 准一         | 久保 泰孝           | ※真鍋 裕之           | ※押谷 一                | ※工藤 秀樹           |
| 九州   | 岩月 理浩  | 竹下 博喜         | 福島 和則           | 後藤 晋作            | 草野 武生                | 板並 克也            |
| 沖縄   | —      | 運輸部長<br>石谷 俊史 | 車両安全課長<br>古謝 昌彦 | —                | —                    | —                |

## 経済産業省地方経済産業局

2020年5月1日現在 (敬称略)

| 局別    | 経済産業局別 | 当会の相談窓口    | 部長名   | 課長名   |
|-------|--------|------------|-------|-------|
| 産業部   | 関東     | 製造産業課      | 勝本 光久 | 猪俣 智子 |
|       | 中部     | 製造産業課      | 岡本 正弘 | 浅野 俊明 |
|       | 近畿     | 製造産業課      | 西野 聡  | 八田 明洋 |
| 地域経済部 | 北海道    | 製造・情報産業課   | 佐藤 正幸 | 小塚 隆  |
|       | 東北     | 情報・製造産業課   | 蘆田 和也 | 村田 久明 |
|       | 中国     | 地域経済課      | 栗田 豊滋 | 森分 幸雄 |
|       | 四国     | 製造産業・情報政策課 | 松原 浩司 | 宮本 典明 |
|       | 九州     | 製造産業課      | 松下 達也 | 今村 芳仁 |

## 3月

|     |                            |                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3日  | 特装部会／ローリ分科会                | (書面配布)<br>特装技術委員会報告                                                                                                                                                                                                                            |
|     | トラック部会／技術委員会               | ① JABIA規格「車両運搬車の構造基準」の修正内容の確認<br>② R58-03改訂の進捗報告と論議                                                                                                                                                                                            |
| 4日  | 第4回環境委員会                   | (書面審議)<br>① 2019年度事業計画確認<br>② JABIA規格 E0001-2011見直し<br>③ 2020年度事業計画(案)                                                                                                                                                                         |
| 5日  | 第4回中央技術委員会                 | (書面審議)<br>① 2019年度活動実績<br>② 2020年度活動計画                                                                                                                                                                                                         |
| 6日  | 第4回中央業務委員会                 | (書面審議)<br>① 2019年度事業計画進捗<br>② 2020年度事業計画(案)                                                                                                                                                                                                    |
| 9日  | 特装／ダンプ車分科会                 | (書面配布)<br>特装技術委員会内容の共有                                                                                                                                                                                                                         |
| 10日 | トラック部会／部会会議                | (書面配布)<br>2019年度事業報告(案)、2020年度事業計画(案)                                                                                                                                                                                                          |
| 11日 | 特装部会／ミキサ車分科会               | (書面配布)<br>特装技術委員会内容の共有                                                                                                                                                                                                                         |
| 12日 | 特装部会／塵芥車分科会                | (書面配布)<br>特装技術委員会内容の共有                                                                                                                                                                                                                         |
| 13日 | 中央技術委員会／<br>テールゲートリフト技術分科会 | (書面配布)<br>特装技術委員会、中央技術委員会内容の共有                                                                                                                                                                                                                 |
| 17日 | トレーラ部会／サービス委員会             | 全日本トラック協会2020年度講演内容検討                                                                                                                                                                                                                          |
| 19日 | 常任委員会                      | (書面配布)<br>① コネクテッドを主としたCASE等の最新技術への準備<br>② SDGsと当会活動の関係<br>③ 2020年度車工会海外視察計画                                                                                                                                                                   |
|     | 第255回理事会                   | (書面審議)<br>① 審議事項<br>第1号議案 新入会員に関する件<br>第2号議案 2020年度事業計画(案)に関する件<br>第3号議案 2019年度収支報告(決算見込み)及び2020年度収支予算(案)に関する件<br>第4号議案 評議員承認に関する件<br>② 報告事項<br>1)2019年度事業計画 本部/部会/支部別実績(見込み)まとめ<br>2)2019年度調査研究/基準化/共通化実績と2020年度計画<br>3)最近の官公庁情報<br>4)その他報告事項 |
| 23日 | 中央技術委員会／<br>突入防止装置技術委員会    | (書面審議)<br>協定規則第58号 第3改訂版の解説書まとめ                                                                                                                                                                                                                |
| 24日 | トレーラ部会／業務委員会               | (書面審議)<br>① 全日本トラック協会2020年度講演進捗状況<br>② 2020年度トレーラ国内需要見通し                                                                                                                                                                                       |
|     | 資材部会／役員・幹事会                | (書面審議)<br>① 2019年度事業報告・収支決算報告承認<br>② 2020年度事業計画(案)・収支予算(案)・役員体制(案)確認                                                                                                                                                                           |

|     |                |                                                                   |
|-----|----------------|-------------------------------------------------------------------|
| 26日 | トレーラ部会／製品安全委員会 | (書面審議)<br>① 2019年度事業報告<br>② 2020年度事業計画                            |
| 27日 | 特装部会／脱着車合同分科会  | (書面配布)<br>特装技術委員会内容の共有                                            |
|     | トレーラ部会／技術委員会   | (書面審議)<br>① R141(TPMS)、R142(タイヤ取付)審議<br>② R117(タイヤ単体騒音)、共通構造部等を報告 |

## 4月

|     |                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9日  | トラック部会／部会総会     | (書面審議)<br>① 2019年度事業報告・収支決算報告承認<br>② 2020年度事業計画(案)・収支予算(案)・役員体制(案)承認                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 16日 | 常任委員会(WEB会議)    | (書面配布)<br>① 4月10日「自動車工業4団体合同会見」情報の共有<br>② 直近の当会活動(当会総会の開催、当会海外視察等)の確認<br>③ 2020年度事業計画の運営等の確認                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|     | 第256回理事会        | (書面審議)<br>① 審議事項<br>第1号議案 2019年度事業報告まとめ<br>1-1 事業報告概要<br>1-2 会員状況<br>1-3 会員会社の車体生産状況の推移<br>1-4 本部活動実績一覧<br>第2号議案 2019年度収支決算報告<br>第3号議案 2020年度事業計画(案)<br>3-1 事業計画概要<br>3-2 本部委員会事業計画<br>第4号議案 2020年度収支予算(案)<br>第5号議案 理事の変更に関する件<br>第6号議案 2020年度車体工業会優良従業員表彰(案)<br>第7号議案 2020年度車体工業会功労者表彰・永年在籍会員表彰(案)<br>② 報告事項<br>1) 2020年度本部委員会体制<br>2) 2019年度会員のリコール等重大不具合結果<br>3) 2019年度国内商用車販売状況<br>4) 最近の官公庁情報<br>5) その他報告事項 |
|     | 特装部会／部会総会       | (書面審議)<br>① 2019年度事業報告・収支決算報告承認<br>② 2020年度事業計画(案)・収支予算(案)・役員体制(案)承認                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|     | 特種部会／部会総会       | (書面審議)<br>① 2019年度事業報告・収支決算報告承認<br>② 2020年度事業計画(案)・収支予算(案)・役員体制(案)承認                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|     | 小型部会／部会総会       | (書面審議)<br>① 2019年度事業報告・収支決算報告承認<br>② 2020年度事業計画(案)・収支予算(案)・役員体制(案)承認                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|     | 17日 トレーラ部会／部会総会 | (書面審議)<br>① 2019年度事業報告・収支決算報告承認<br>② 2020年度事業計画(案)・収支予算(案)・役員体制(案)承認                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 21日 | バン部会／部会総会       | (書面審議)<br>① 2019年度事業報告・収支決算報告承認<br>② 2020年度事業計画(案)・収支予算(案)・役員体制(案)承認                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 21日 | バス部会／部会総会       | (書面審議)<br>① 2019年度事業報告・収支決算報告承認<br>② 2020年度事業計画(案)・収支予算(案)・役員体制(案)承認                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 24日 | 資材部会／部会総会       | (書面審議)<br>① 2019年度事業報告・収支決算報告承認<br>② 2020年度事業計画(案)・収支予算(案)・役員体制(案)承認                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

## 月度活動狀況

5月

|     |                        |                                                            |
|-----|------------------------|------------------------------------------------------------|
| 8日  | 相談役会                   | (書面配布)<br>① 2020年度事業計画(案)についての諮問<br>② 2020年度収支予算(案)についての諮問 |
|     | 評議員会                   | (書面配布)<br>① 2020年度事業計画(案)についての諮問<br>② 2020年度収支予算(案)についての諮問 |
| 13日 | バス部会／技術委員会(WEB会議)      | ① 2020年度事業計画の進め方確認<br>② バス車体規格集2021年版改訂内容整理                |
| 20日 | バス部会／ワンマン機器小委員会(WEB会議) | ① 2020年度事業計画の進め方確認<br>② JABIA規格「バス用運賃表示器」改正内容の整理           |
| 22日 | 通常総会(WEB会議)            | <別掲参照> <span style="float: right;">▶ P.3</span>            |
| 25日 | 安全衛生活動WG               | (書面審議)<br>① 2020年度活動計画の確認<br>② ホームページ掲載に向けた労働災害事例の内容確認     |
| 28日 | トレーラ部会／技術委員会(WEB会議)    | 2020年度取組み内容の確認                                             |
| 29日 | 第1回広報委員会(WEB会議)        | ① 2020年度事業計画進捗状況の確認<br>② 車体NEWS夏号編集委員会                     |

## 会 員 情 報

- 入 会** 正会員 (株)ウイング 代表取締役 今井 一男  
 〒136-0072 東京都江東区大島2-7-13 TEL:043-214-3511(千葉工場)  
 【主要製品】 平ボデートラック  
 【所属部会】 トラック部会

**■ 退 会** 正会員 日立キャピタルオートリース(株)  
 準会員 (株)東名 (愛知県名古屋市)

**■ 代表者変更** 正会員 飛鳥特装(株) 代表取締役社長 川野 順也  
 準会員 (株)交通電業社 代表取締役社長 相蘭 岳生  
 パーソルR&D(株) 代表取締役社長 磯田 英嗣

**■ 会社合併** (株)アスカ・アイテック  
 → 松電通信(株) 代表取締役社長 馬場 淳一  
 〒223-0053 神奈川県横浜市港北区綱島西2-6-17 TEL:045-543-4791

お知らせ

## ～ 環境対応事例発表会のご案内 ～

- ◆日 時： 2020年7月16日(木) 14:30～17:00  
◆場 所： 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ  
検討中。別途開催案内にてお知らせいたします。  
◆内 容： 会員各社の環境対応事例 4件  
特別講演

# COOLBIZ

クールビズ

当会は2020年度もクールビズを実施いたします。

**実施期間：5月1日～9月30日**

事務局職員の軽装(ノーネクタイ、ノー上着)につきまして、ご理解の程、何卒よろしくお願い申し上げます。また、当会主催の会合には軽装でのご参加で結構でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。



環境省HP

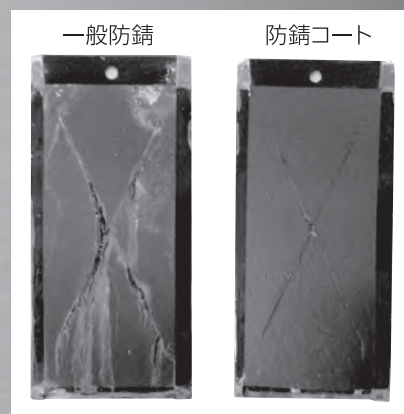
<https://www.env.go.jp/press/106742.html>

# 塗装で車両の価値 UP!! 長持ちさせます!!

## 錆をシャットアウト! ハイアートCBエコ 防錆コート

3つのパワーで鉄壁ガード!

- ① 高い防錆力!
- ② 耐チッピング性を付与!
- ③ 防振・防音効果!



※JIS K5600.7.1 塩水噴霧試験(1000時間)



走行に大事な足回りが



錆でこうなる前に



しっかりガード!!

## 荷台木部（アピトン等）を護る! ウッドプロテクト

工法特許  
出願中

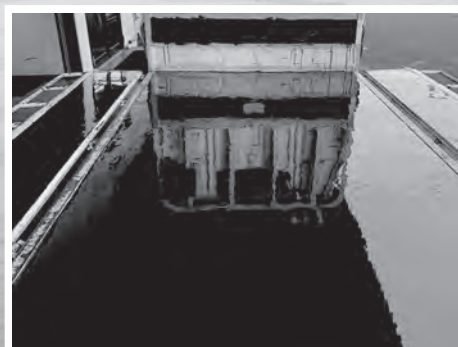
木部の劣化を防ぐ!!

他工法と比較して  
圧倒的低コスト!!

施工は簡単!!



Before



After

全国どこでもテスト施工受付中。お気軽にお問い合わせください。



**イサム塗料株式会社**

営業企画部 大阪市淀川区三津屋南 3-9-8

TEL : 06-6838-4136



中島 栄治 代表取締役社長



#### DATA

- 本社 〒470-0335  
愛知県豊田市青木町1-16  
TEL 0565-45-4832  
FAX 0565-45-4847  
URL <http://www.meidai-net.co.jp/>
- 資本金 3,000万円
- 従業員 80名
- 事業所規模  
関東営業所・関東工場  
敷地 約4,900㎡  
建坪 約2,550㎡
- 車体工業会加入  
2013年(トラック部会)



# MEIDAI



## (株)メイダイ

### 物流と住まい、人々の営みに不可欠な二つの事業で社会に貢献する

1974年の創業以来、トラックボデーと住宅建設の二つの異なる事業を両輪に、時代のニーズを捉え、着実に歩み続けてきた。単なる多角経営ではなく、社会貢献できるカタチを目指しているのが(株)メイダイである。

車体工業会業務部長 小森 啓行

#### ● 特徴・沿革

1974年、運送会社を経営していた現会長の小幡銀伸氏が、建設業と一般商事として、名大物産株式会社を設立。会社理念である「物流と住まいづくりを通じて豊かな社会を創造する」を掲げ、創業当初より、車輛部門と建設部門の二つの事業を展開している。

車輛部門においては、1975年に物流現場から、幌かけの作業を解放する幌ウイング「名大式ワンタッチ幌」の製造販売を開始した。

建設部門では、地域に密着し、大手自動車メーカーが作るプレハブ住宅の施工や一般建設・リフォーム等を行っている。

ワンタッチ幌が累計1万台の販売実績を上げた1984年、社名を現在の株式会社メイダイに変更した。

翌1985年、群馬県に関東営業所を開設、1991年には兵庫県に関西

営業所を開設する。さらにワンタッチ幌の需要増に伴い、2004年、関東工場を開設し、全国に拡大した顧客に対応できるように態勢を整えた。

尚、「ワンタッチ幌」は最盛期には年間6,500台を販売し、累計販売台数は10万台を超えるメイダイのロングヒット商品となっている。

2014年、小幡氏は会長に就任し、大手自動車メーカー出身である中島栄治氏が社長に就任、新たなマネジメントで各事業を牽引し、現在に至っている。



関東工場

## 製品

### ー 御社の業務の特徴についてお聞かせください。

車輛部では、トラックのボデー及びメイダイ式ワンタッチ幌に代表される側面開放車の製造販売において、創業当時から一貫して物流の効率化と安全にお役に立てる商品の製造・販売を行っています。建設部では、地域に密着し、住宅の施工や一般建設・リフォームのきめ細かなサービスを行っています。



40年のロングセラー商品のワンタッチ幌  
現在も改良が続けられ、進化している



3方向開放可能なオープンスライダー

### ー どのような製品を手掛けているのでしょうか？

「ワンタッチ幌」は、平ボデーのシート掛け作業を省くことで、荷役作業の効率化、安全性の確保に貢献してきました。油圧ウイングと異なり、信頼性の高い機械式ですので、製造業の物流現場で好評を得ています。

「オープンスライダー」はサイド、天井、リヤの3方向開放が可能で、独自構造で開閉重量10kgの軽さを実現しました。シート掛け作業不要、作業員の安全確保、作業時間の短縮等、物流の現場において、「働き方改革」「生産性向上」に貢献しています。

また社員の提案で始めた事業で、お客様の都合の良いタイミングで、お客様の元で修理を行う、出張修理の「メイダイムービング サービス (MMS)」も展開しています。



オープンスライダーは軽い力で開閉が可能

### ー 御社の経営方針は？

「あったかメイダイ」です。お客様、地域、取引先、従業員すべてに感謝の気持ちを込めて仕事をするあたかい会社、お客様も、従業員も笑顔になれる会社を目指しています。

本年度は、2016年度からの中期経営計画「2020年ビジョン」最終年度として、「お客様に愛され信頼される会社」に向けたビジョンの実現を目指しています。

環境変化を先取りした「商品開発」「お客様サービスの充実」「生産性向上」にも取り組んでいきます。



MMS車両、お客様の修理依頼に機動力をもって迅速に対応

## 人

### ー 御社の特徴は？

従業員一人ひとりが、それぞれの立場で「自ら考え」「自ら行動し」「責任をもってやりきる」を基本とし、コミュニケーションを大切に、スピード感をもって仕事にあたることを徹底して



います。チームワーク良く、一体感をもって各自の仕事にあたり、常に本質を追求しお客様に応えていくようにしています。

### ー 次世代の教育について

一方通行の評価を改めた新人事制度を制定し、成果は社員と会社が対話をもって評価していくようにしています。一人ひとりが目標をもって仕事をし、頑張ることが評価に繋がる制度で、やる気を引き出します。

また、コミュニケーションを重視し、新入社員や若年の途中入社社員には、悩みや困りごとまでフォローする「職場先輩」が付いて、社員教育や技術の伝承に役立てています。



資材部会では2020年度も100社が在籍し活動を実施しています。その中の約30社は自動車の内装、特に「シート生地」や「床張り材」等を製造している会社で、内装分科会に所属しています。上記のような製品を自動車で採用するには、難燃性試験を実施して、基準値に適合したものでなければなりません。

車体工業会会員は、その基準に適合した製品を、車体工業会事務局に届出て、難燃性JABIA素材登録を行うことになっています。

資材部会では、この登録制度を、部会内事業活動として、難燃性試験実態調査委員会を設置し、会員会社の難燃性試験が適正に実施されているか調査を実施しています。

車体工業会では、国土交通省（旧運輸省）によって認められた本制度により、難燃性試験実施事業所36（2020年3月現在）を指定事業所とするとともに累計で約4,800点の素材の登録を行い、適正な内装材を市場に供給するとともに、車体工業会所属の車体メーカーにおいては、これらの素材を使用した場合には完成車ごとに保安基準に適合する旨の右図のラベルを貼付しています。



## 難燃性JABIA素材登録

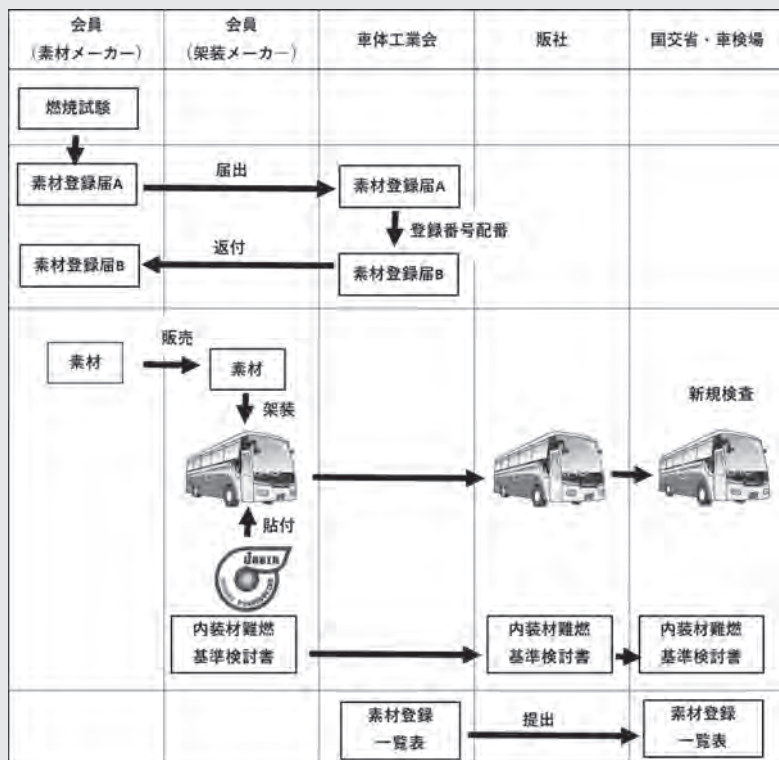
1993年(平成5年)4月13日付運輸省令第14号により「道路運送車両の保安基準」の一部が改正され、1994年(平成6年)4月1日以降に登録する新車の運転者室及び客室の内装材は、道路運送車両の保安基準の細目を定める告示第26条の別添27(内装材料の難燃性の技術基準)に適合したものでなければならないこととなった。

また、1994年(平成6年)3月18日付で旧運輸省通達「内装材の難燃性の検査方法について」が公布され、公益法人等が基準への適合性を証明する取扱いが定められた。

車体工業会では、この通達を受けて、1994年（平成6年）3月29日付で「JABIA素材登録制度（車体工業会会員の素材メーカーは、「TRIAS 20-J07-01（内装材の難燃性試験）」に基づき燃焼試験を行い、試験結果を添えて車体工業会に届出る。車体工業会は、登録番号を配番し届出者に返付するとともに、素材登録一覧表を国交省及び全国的車検場に提出する。また、架装メーカーは、当該内装材を使用した自動車には専用のJABIAラベルを貼付するとともに、新規検査時に必要となる「内装材難燃基準検討書」に当該登録番号を記載する。）を創設し、新規検査の合理化に寄与している。

なお、JABIA登録外の内装材については、公的試験機関等による「試験成績書」又は素材メーカーが発行する「適合証明」等が必要となる。

## JABIA素材登録制度



今回は、新型コロナ感染拡大防止のため、資材部会会員への取材を行うことができなかったため、「難燃性試験実態調査委員会」の紹介記事を掲載いたします。

## 難燃性試験実態調査委員会

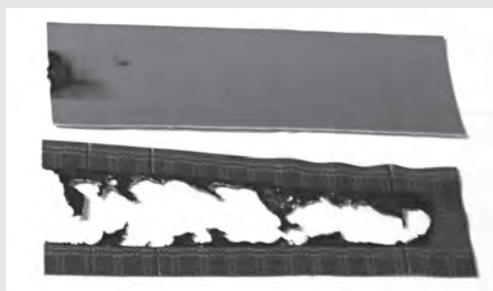
難燃性試験実態調査委員会は、難燃性登録が適正に継続的に行われることを目的として、資材部会内に2014年に設置され、2014年、2015年の2年間に部会の指定事業所30か所の実態調査を実施した。



難燃性試験設備

実態調査の確認事項としては、施設、設備においては、適正な試験器が使用されているか、適正な湿度、温度調整が整った試験環境か、その他試験片等の確認を行い、試験実施の体制においては、装置管理責任者の確認、装置取扱責任者の確認、主として試験を行う者の確認、作業員の試験に対する習熟度、試験に関するマニュアルの有無や更に届出文書の管理状況等について調査を行ってきた。

実際の試験の確認では、試験時のスタッフの人数、試験片の寸法の適正、試験片の切除方法、試験片の試験器への取付け方法、試験器の発火方法、試験時の発火時の高さの確認、試験片の燃焼具合、試験片の燃焼速度の状況、試験片の燃焼距離の確認、燃焼速度の観測方法の仕方、試験機に使用するガス、試験に使用するタイマー等の機器の校正等を確認した。



試験後の試験片（材料による違い）

実態調査を行った結果、各社とも適正な試験を行っていることを確認した。また、委員会では、保安基準等の規定等の改正に併せて、当会で発行している「自動車用内装材の難燃性規制と登録手続き」の改訂を2017年に実施した。難燃性試験実態調査委員会では、今後も「安全、安心」を担保するために継続して実態調査を実施していくこととしている。



2017年改訂版

### 2020年度 難燃性試験実態調査委員会メンバー

| 役職   | 会社名            | 氏名    |
|------|----------------|-------|
| 委員長  | 住江織物(株)        | 瀬戸 貞弘 |
| 副委員長 | (株)タチエス        | 後藤 博  |
| 委員   | 住江織物(株)        | 白坂 清治 |
| 委員   | (株)タチエス        | 安藤 亮治 |
| 委員   | 天龍工業(株)        | 杉山善多佳 |
| 委員   | ロンシール工業(株)     | 鈴木 孝  |
| 事務局  | (一社)日本自動車車体工業会 | 柿内 幸子 |
| 事務局  | (一社)日本自動車車体工業会 | 信澤 幸男 |

### 瀬戸委員長からのあいさつ

「2020年度から難燃性試験実態調査委員会の委員長に任命されました。委員会のメンバーの方々のご協力をいただき、委員会運営のため誠意努力いたす所存でございます。実態調査を継続して実施していく予定です。会員皆様、何卒、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



# 知りたい

## 「オフィスの動向」は？

そこが

第45回

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大は、生活様式の見直しに繋がり、これまでのビジネスの仕組みや働き方にも劇的な変化をもたらした。これまで当たり前であったオフィスについても必要性や価値が変わっていくと思われる。今回は身近なオフィスについて報告する。

### Q1

#### 国内でオフィスと呼ばれるスペースはどのくらい？

国内オフィスの床面積は年々増加し、2018年には89,937haに達した。2000年の74,815haからは約20%の15,122ha増加した。その中で、東京圏は約24%、4,938ha増加し、25,900haとなった。

また、国内オフィスのうち東京圏が占める割合は、いわゆるバブル期に大きく増加し、バブル終焉後に最大の28.83%増となった。その後、比率は低下したものの、あらためて増加傾向で推移し、2018年には28.80%増とピーク時に迫る状況となった。これは東京圏への一極集中が進んだことと関係しているものと考えられる。

【オフィススペース(ストック)】



【出典：三井不動産ホームページから作成】

### Q2

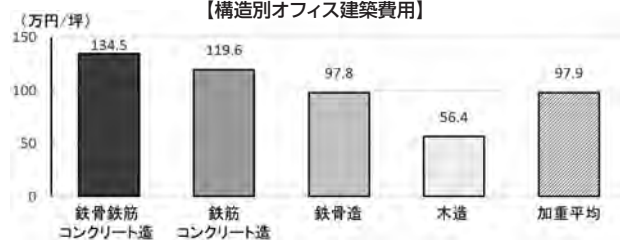
#### オフィスの建設費用は？

2018年の建築着工統計調査(国土交通省)によると、全国におけるオフィスの構造別建築費(坪単価)は、高額な順に鉄骨鉄筋コンクリート造134.5(万円/坪)、鉄筋コンクリート造119.6(万円/坪)、鉄骨造97.8(万円/坪)、木造56.4(万円/坪)で、加重平均は97.9(万円/坪)となっている。

全構造平均の坪単価が97.9(万円/坪)となっているのは、鉄骨造が全体の69%を占めているためと推察される。

また、建築工事費におけるオフィス(事務所)が占める割合は高く、建築業界としても重要。

【構造別オフィス建築費用】



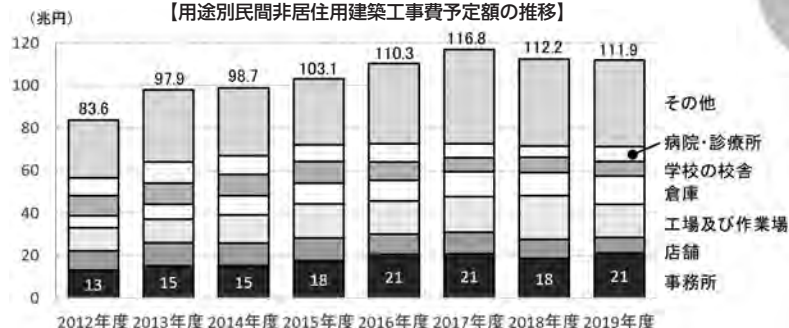
【出典：「アーキブック」ホームページから作成】

【構造別オフィスの構成比】



【出典：「アーキブック」ホームページから作成】

【用途別民間非居住用建築工事費予定額の推移】



【2019年度用途別民間非居住用建築工事費予定額構成比】



【出典：国土交通省e-Stat建築着工統計調査から作成】

#### 【最近竣工のオフィスビル事例：2019年6月竣工のアーバンネット内幸町ビル】

アーバンネット内幸町ビルは、NTT都市開発が東京都港区新橋に新設した地上27階、地下2階、高さ135.44m(最高136.84m)、延べ面積36,099㎡のオフィスとホテルで構成する超高層ビル。



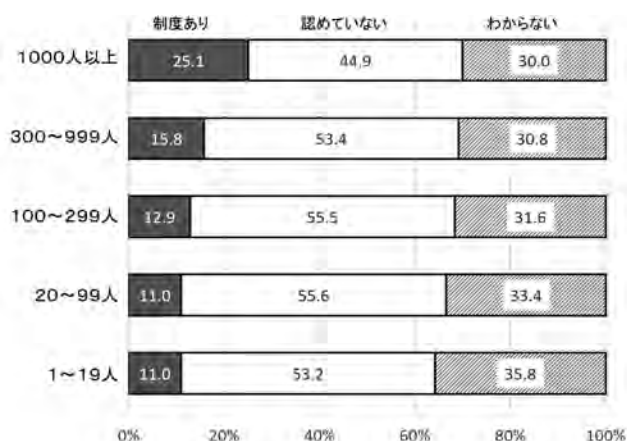
【出典：NTT都市開発(株)ホームページ】

## Q3 オフィスとテレワークの関係は？

「働き方改革」の3本柱の一つが「柔軟な働き方の実現」。これは働く人が自分らしく、前向きに働き続けることを実現することである。働き易さが確保され、より多様な人材が活躍できるようになれば、人材不足対策にも繋がる。具体的には、個人のライフスタイルに応じた働き方としてテレワークや時短勤務の導入等が挙げられ、各企業が検討を行ってきた。

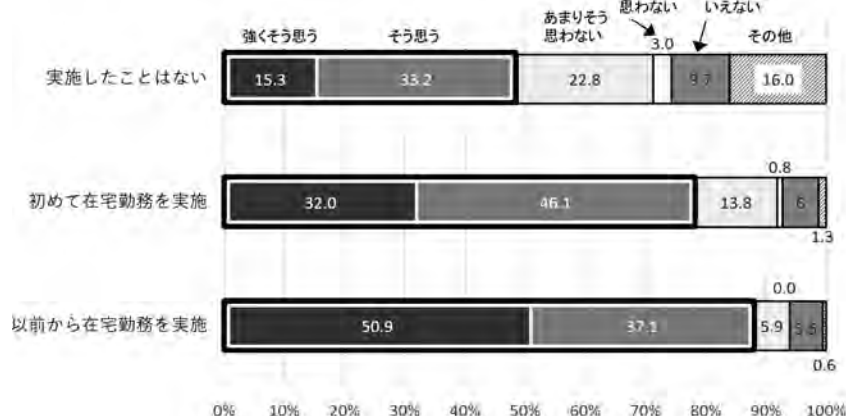
特にテレワークについては通勤という行動そのものをなくすることができる。昨年のテレワークに関する調査結果では、企業側はテレワークに適した業務がないなどの理由から導入には積極的ではなかった。2020年に入り、新型コロナウイルス感染拡大防止策として「3密」を避けるため、通勤を控え出勤人員を極力減らす取り組みとしてテレワークが急速に拡大した。こうした動きは、今後、オフィスのあり方の見直しにも繋がり、オフィスの増加がこれまでとは変化してくることも考えられる。

【従業員数別テレワーク制度等導入割合】



【出典:2018年3月テレワーク実態調査(国土交通省)から作成】

【従業員数別テレワーク制度等導入割合】



【出典:(一社)日本能率協会2020年5月13日プレスリリースから作成】

## Q4 今後のオフィスのあり方は？

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大という環境変化が、これまでテレワーク導入に向けた課題解決を急速に進め、一部に限られていたテレワーク導入に繋がったことは事実である。一方、事前準備が十分ではなく、テレワークを行う社員、そして上司にとっても問題・課題を再認識することとなった。一般社団法人日本能率協会が行った「新型コロナウイルス感染症に関連するビジネスパーソン意識調査結果」からは次のような管理職としての課題も確認できた。

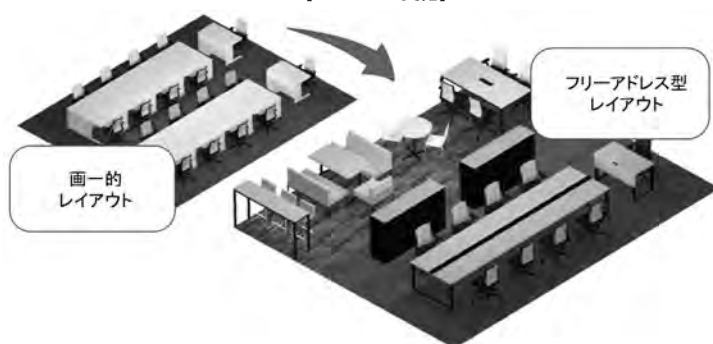
- ▶在宅勤務の経験の有無に関わらず、「社内のコミュニケーション」、「部下のマネジメント」、「部下に対するOJTや人材育成」、「通信環境の整備」の比率が高い。

全ての業務をテレワークとすることができたとしても、オフィスを活用した人間関係の構築や管理職が課題と認識している部下の人材育成等、オフィスの使われ方が実業務中心から変化していくことになるかもしれない。

それに伴い、オフィスのレイアウトも見直され、これまで以上に働きやすい空間となり、オフィスとして存在し続けるのではないと思う。

その場合のオフィスは、“social distancing”に配慮しつつ、様々なアイデアを織り込んだ、これまで以上に働く人が中心のオフィスとなるはずである。

【オフィスの変化】



【出典:(株)PR TIMES ホームページから作成】

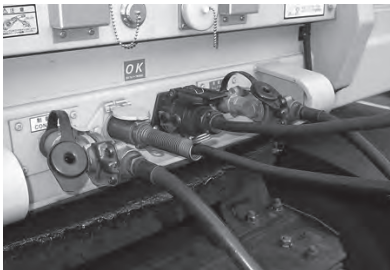
トレーラは長期間使用する傾向にあります。働くクルマとして業務を行うためには、日々の日常点検が重要です。安全、安心な運行をするために、今回はトレーラ日常点検の重要な項目についてご説明します。



## 第29回：トレーラ日常点検について

### 1. エアカップリング接続部及びホースからのエア漏れ

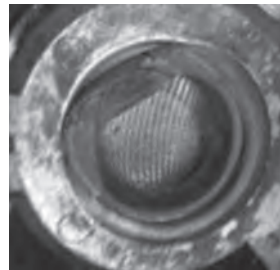
- ・エアカップリング接続時にエア漏れが止まらないことはありませんか？  
何度か接続をやり直すとエア漏れが止まるという状況は危険な状況です！  
日常点検時、エアカップリング部のゴム部品が変形、ゴムの劣化が無いか確認してください。変形、劣化がある場合には早急に交換してください。
- ・万が一、走行中にエアカップリング部から大量のエア漏れが発生すると、トレーラの非常ブレーキが作動し、事故に繋がる恐れがあります。



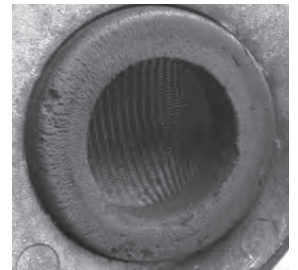
カップリング接続部 例



エアカップリング



ゴムの変形



ゴムの劣化

### 2. ツールボックス及びスペアタイヤキャリアの取付け状態の確認

- ・2018年10月よりツールボックス及びスペアタイヤの取付け状態の確認が3か月ごとの定期項目に追加されました。
- ・ツールボックス、スペアタイヤの取付け状態以外にも車両の下廻りには色々な装置が取り付けられているので、日常点検時、車両を1周する時に各装置の取付け状態の確認を行ってください。



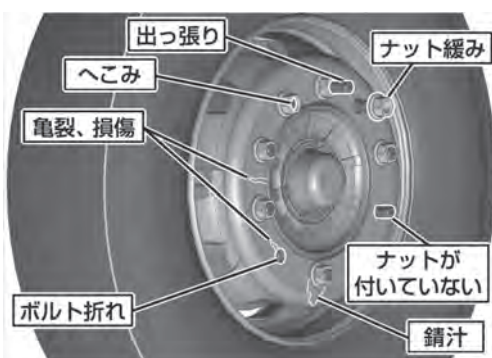
スペアタイヤキャリア例



ツールボックス例

### 3. ホイールの取付け状態の確認

- ・ホイールボルト、ナットの状況を確認し、著しい錆が出ている場合にはホイールボルトが折損し車輪脱輪の恐れがあります。
- ・タイヤ交換を行った時には50Km～100Km走行後に増し締めを行い、脱輪を予防しましょう。



確認部位



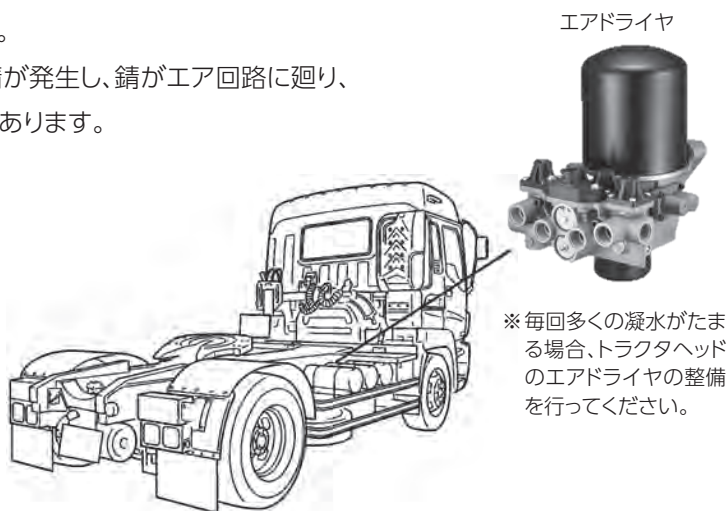
ホイールボルト折損により脱輪したホイール

## 4. エアタンクの水抜き

- ・エアタンクには空気中の水分、雨水の他に、トラクタヘッドから供給される圧縮エアに含まれる水分、油分が送り込まれることがあります。  
エアタンク内に溜まる凝水を1日1回排出してください。
- ・タンク内の凝水を放置したままにすると、タンク内に錆が発生し、錆がエア回路に廻り、制動装置、緩衝装置、リフト制御に影響を及ぼす恐れがあります。

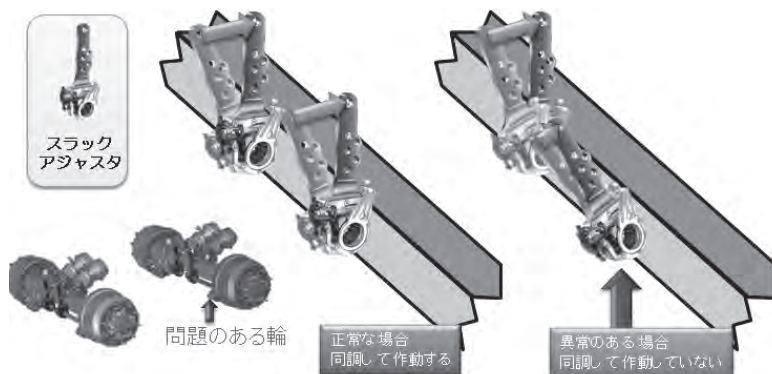


1日1回タンク内の凝水を排出してください。



## 5. トレーラのブレーキ作動確認

- ・トレーラ側のブレーキ操作が適切に行えるかトラクタヘッドにてブレーキ操作を行い車軸に装着しているスラックアジャスタの動きを目視確認してください。  
全てのスラックアジャスタが同調して作動する状態が正常な状態です。  
(トレーラの駐車ブレーキ操作の場合、スプリングブレーキチャンバ装着軸のみブレーキが作動します。)
- ・1か所でも同調して作動していない所がある場合は、ブレーキ解除ができていない場合があります。必ず点検を行ってください。



## 6. 車体工業会 トレーラ日常点検資料のご紹介

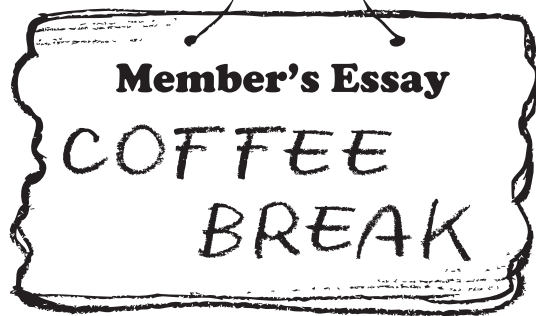
- ・車体工業会ホームページにトレーラを安全かつ有効に使用していただくための「法定点検項目」、「自主点検項目」及び「点検順序」を紹介しています。 ホームページより資料を印刷してご活用ください。



車体工業会ホームページ

<https://www.jabia.or.jp/cms/wp-content/themes/httpdocs/assets/pdf/safety/system/toranichizyotenkentebiki.pdf>





## ゴルフ

白川鉄工(株) 設計 にしむら みのる 西村 稔

弊社白川鉄工(株)では年に数回、社内ゴルフコンペを開催しています。

参加者は弊社社員、協力工場の皆様で、自由参加型です。社員は自分に合った「自己申告目標スコア」を設定しており、目標達成に向けて切磋琢磨しています。

コンペは社内のコミュニケーションの円滑化を図るため、営業職・現場職等の部署・年齢・性別・役職など関係ない組合せで行われます。普段なかなか接点のないメンバーと同じ組でプレーすることによって、業務上の新しいアイデアが生まれたり、自身の業務を客観的な目線で見たとアドバイス等を受けることもあり、良い刺激になっております。

弊社が社員にゴルフを推奨する意図の一つに「健康管理」があります。「ゴルフは一生できるスポーツ」とも言われますが、身体に無理のない運動として推奨しています。



ゴルフを楽しむ筆者

弊社社員はほとんどが自家用車通勤です。私を含め大半の業務をデスクで行う者は運動不足になりがちです。私も若くはないのでゴルフを通して良いリフレッシュ・良い運動ができていると感じます。



昨今のコロナウイルス感染症の発生に伴い、当面は社内イベント等の活動は自粛です。私は休日にはステイホームでゴルフの勉強や素振り等の練習をしています、またコンペが開催されるときには皆をあっと言わせるスイングで魅せたいものですね。これからも若手社員に負けずに取り組んでいきたいです。

## 心地良い音色に導かれた私が三線を奏でるまで

(株)シンセイ 海外事業部 まなか かずよし 真中 一嘉

幼少期から音楽センスの欠片もない私は楽器になんて興味もなく、学生時代の音楽の成績は本当に酷いものでした。そんな私が高校の修学旅行の時、人生で初めて音色に衝撃をうけた楽器が三線でした。心地良い音色は飽きることなく、いつまでも聴いていられたことを今でも鮮明に憶えております。音楽センスの無い私はすぐに買って三線を弾こうなんて勇気もなく、若かったこともあり買うお金もなく、違う遊びに夢中…、何かあればCDで聴くことだけで満足をしていました。

沖縄音楽を含む三線への思いは薄れることはなく、幾度といった沖縄での思い出から、次男の名前には「琉球王国」から「琉」の文字を入れ命名をしたほどです。それから十数年、日々の仕事の忙しさと子供達との時間であっという間にオジサンに。

そんな状況の中できっかけは突然来るもの、TVから聴こえた「ダイナミック琉球」(高校野球等の学生が演奏する応援歌)を聞いたことであの時の思い出が。時間の余裕も少し出てきたことで家族に内緒で三線を衝動買い。何度も



三線を弾く筆者

言うように、素人で音楽の経験もない私は幾度となく心折れそうになりながら練習。三線の楽譜は音符でなく「工工四」、漢字を縦に読んでいく楽譜であり、リズムも独特、何もかも初めての状況に頭の中も、指先も全てに苦戦。

継続は力なりと言いますが、独学でやるのがここまで大変だとは思いませんでした。YouTube等でゼロからスタート、時間はかかりましたがなんとか弾けるようになりました。まだまだ上手と言えませんが、今では忙しい時でも自分自身のストレス解消方法として、「いざ、沖縄タイム」と命名し、暇を見つけては心を癒す時間を楽しんでおります。

弾くことなんて出来ないと思っていた家族からも最近では、「ちょっと上手になったね」と言われ、「そうか～」と返事をする自分に内心喜びを感じながら、心から楽しんで三線を奏でております。



幸い、父も時代小説が好きで、その知人にも読書好きが多かったため、シリーズ物は購入しなくても貸してもらえるようになり、少ないお小遣いで数多くのシリーズを読むことができました。

時代小説は、史実を基にした歴史小説と違い、架空の人物を創出し描かれているので、歴史に詳しくなくても気軽に楽しめます。また、時代としては、江戸中期から後期が対象となっていて、読んでみると江戸時代の生活風景や人情、粋、絆、そういったものがありありと伝わってきて、その情景を浮かべながら読むのが楽しいところです。

時代小説を読むようになってから、都内の江戸時代の面影が残っているところを散策したり、各地に旅行した際も古い街並みを訪れることが趣味になりました。

また、小説に出てくる料理も魅力の一つです。(帰宅途中の空腹には、なかなか応えますが)

日本酒も、登場人物があまりにも美味しそうに飲むのでつられて飲むようになりました。

時代小説を読み始めて20年、最初の頃の本を読み返していると、読んだ記憶はあるものの結末は忘れてしています。しかし、それも何だか新鮮で、2度目も夢中になって読んでいます。



鬼平犯科帳の長谷川平蔵の役宅があったとされる清水門外にて

## 時代小説

トヨタ車体(株) 特装福祉事業部 きむら ただし 木村 勲

「あの本は俺も読んだなあ。」 人が読んでいる本を見かけて思ったことはありませんか？

私は、時代小説が好きなので通勤の際、そんな方を見かけるとチョット嬉しくなります。

ただ、時代小説は中高年のライトノベル分野なので、若い世代の方がビジネス書や経済紙を読んでいるのを見ると、少し気後れしてしまいます。それでもやめられないので、ブックカバーをかけ、眉間にシワを寄せ「難しい顔」をしながら読んでいます。

愛知での車通勤のときは、あまり本を読む習慣はありませんでしたが、東京に異動で往復2時間半の電車通勤となった際、読書習慣がつかしました。

実家にあった藤沢周平の『時雨のあと』を「時代小説ってどんな本?難しそうだけど理解できるのか?」と、面白くないだろうと決めつけて読んだところ、意外にも読み易く、一気に読んでしまい、それから全作品を読んだのがきっかけです。

## 新企画！第2回

会員の誰もが参加できて、SNSの投稿記事を見るような楽しい記事を掲載していきます。皆様のご参加をお待ちしております。

# いどばた会議

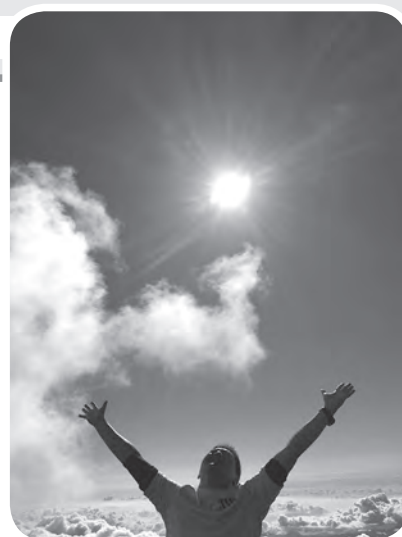
## 私の生き生き健康ライフ ～運動編～

### 山登りで一気に体脂肪燃烧



昭和飛行機工業(株) 布施 杜諭

普段の不摂生で体に溜まった脂肪を週末の山登りで燃烧させています。登る山によりますが、登山1回でランニング数回分のカロリーを消費できます。コツコツのダイエットが苦手な方は、ハイキングなど如何でしょうか。



富士山山頂

### アンチエイジング

トヨタ自動車九州(株) やました たかし  
山下 敬志

40代になり、気持ちとは裏腹に身体の衰えを急激に感じるようになりました。このままではいけないと、今年に入り筋トレ、ジョギングを開始しました。目指すは毎年恒例の社内駅伝大会出場！若さを取り戻します！



## 朝晩2回 365日の犬の散歩



トヨタ自動車東日本(株) <sup>やぎぬま えみ こ</sup> 柳沼 絵美子

去年から柴犬を飼い始め、散歩を日課にしています。休みの日でも最低5,000歩は歩くので軽く良い運動になっています。雨や雪の日は心折れかけますが、美しい自然も楽しみながら、これからも頑張ります。



愛犬ゆめと娘

## 心を鍛えているのかもしれない

日産車体(株) <sup>そね なおと</sup> 曽根 直人

今年からパーソナルジムに通い始め、心身ともに鍛えています。自宅では、5キロのトレーニングバーを使っでの運動もしています。お家で簡単にできるので、これから始める方にもオススメのグッズです。



## ジョギングで健康維持

(株)小田原機器 <sup>こばやし あつし</sup> 小林 淳

休日に10km程度走っています。  
4月下旬からは密を避け、早朝走るようにしています。マスクから半分だけ出た頬に当たる風もそれなりに心地よいけど、新鮮な空気を満面に受けて走れる日が待ち遠しい！



小田原の朝日



いすゞ車体(株)  
商品設計部  
みのうら わたる  
**箕浦 航さん**



我が社の



自分が描いた図面  
が現物となる瞬間が  
とても楽しいです。

自分の力で解決  
できたときは達成感  
を得られます。

日本フルハーフ(株)  
情報システム部  
にしむら み き  
**西村 美紀さん**



## Q1 どんなお仕事ですか？

弊社は、いすゞのすべての標準車型に対して、高品質なドレスアップ(仕様変更)と改造・架装をベストな状態で提供する会社です。これまでに培ってきた技術やノウハウを生かして車両を造っており、その中で、私は小型車両の設計を担当しています。多種多様な架装メーカーや、お客様の要望に合わせてシャシ設計をしています。

## Q2 仕事で楽しいときは

私が担当する小型のトラックは、普段の生活の中で最も身近に感じるトラックだと思います。街中で自分が設計を手掛けた車両を目にする時や、自分が描いた図面が現物となる瞬間がとても楽しいです。設計後の改造工事は、オフィスと隣接した工場で行っているため、自分が手掛けた車両の確認を行うことができ、達成感を得ることもできます。

## Q3 仕事でつらいこと

QCDの三本柱をバランスよく満足させることに苦労しています。世の中のニーズと共に法規も変化をしていくため、日々更新されていく法規への対応には頭を悩まされる場面も多いです。限られた時間の中でいかに品質よく効率的に仕事ができるかを模索しながら日々の仕事に取り組んでいます。

## Q4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は？

入社して間もない頃に行った、現場研修です。他部署の方との交流を深めることができ、実際に目で見て触れることで車両について学ぶ経験にもなりました。このような経験が、現在仕事をしていく上で生かされていると感じます。

## Q5 御社のPRをしてください！

いすゞ車体(株)は、お客様の幅広いニーズに、迅速かつ低コストでカスタマイズいたします。暮らしを支える原動力として、全国で活躍するいすゞのトラック。人と社会のあらゆる分野で活躍するオンリーワンの商用車造りは、ぜひ弊社にお任せください。日本自動車車体工業会の一員として、社会に貢献できる車両造りに取り組んでまいります。

## Q1 どんなお仕事ですか？

弊社ではバンボデー・トレーラ・コンテナなど、各種輸送機器の製造・販売・アフターサービスを行っています。その中で私は情報システム部に所属し、社内ITインフラの保守・管理をする業務に携わっています。製造や販売に直接かかわる機会は少ないですが、皆様のサポートできるよう頑張っています。

## Q2 仕事で楽しいときは

特に、パソコンのトラブルを解消した際に、お礼の言葉をもらえたときはとてもうれしく思います。日々様々なトラブルと対峙しますが、自分の力で解決できたときは達成感を得られます。

## Q3 仕事でつらいこと

パソコンに関する問合せを電話で対応することが多いのですが、設定方法等を言葉だけでお伝えするのは難しく自身の未熟さを痛感します。どのように説明すれば、ユーザーに分かりやすく伝えられるかを考えながら日々の業務に取り組んでいます。

## Q4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は？

入社後に現場実習があり、約3か月間現場での作業を経験させていただきました。短い期間ではありましたが、現場実習で経験したことは印象に残っています。今後、現場を支える力となるよう自分にできることを増やす努力をしていきたいと思っています。

## Q5 御社のPRをしてください！

日本フルハーフ(株)は、お客様のさまざまなご要望にお応えすべく、社員一丸となり1台1台心を込めて製品づくりをしています。人々の生活をより豊かにするため、環境と社会に貢献する企業を目指し精進してまいります。

## 2019年度 主要車種の生産状況

( )内は前年度比

2019年度の非量産車の生産台数は、7月までは、前年比プラスで推移したものの、8月以降は前年割れで推移し、年間では183,249台(前年比97.7%)と2年連続で前年度を下回った。

## ① 特装車

- ・ 特装車全体は60,790台(100.4%)となり、2年連続の増加。なお、輸出車は4,132台(83%)と減少。
- ・ 国内向け輸送系車両は42,589台(103%)と2年連続の増加。車種別では、ダンプ車33,834台(100%)、タンクローリ2,754台(105%)、トラックミキサ車2,230台(112%)、粉粒体運搬車839台(104%)、脱着コンテナ車2,932台(123%)。
- ・ 国内向け作業系車両は14,069台(100.2%)と10年連続の増加。車種別では、消防車1,129台(99%)、コンクリートポンプ車277台(105%)、環境衛生車6,851台(103%)、高所作業車5,029台(100%)、その他783台(83%)。

## ② 特種車

- ・ 特種車全体は12,085台(106%)と2年ぶりに増加。
- ・ 量産車(車いす移動車／警察車両)は8,281台(101%)と3年連続の増加。内訳は車いす移動車4,545台(85%)、警察車両3,736台(129%)。
- ・ 非量産車は3,721台(122%)と3年ぶりの増加。作業工作用、サービス用車両及び高規格救急車等の緊急用車両が増加。

## ③ 平ボデートラック (除くシャシメーカー標準車)

- ・ シャシメーカー標準車を除く当会特有車は15,563台(93%)と3年ぶりの減少。
- ・ サイズ別では、大型5,647台(102%)が増加、中型5,084台(92%)、小型・軽4,832台(86%)は減少。
- ・ 車種別では、深あおりが増加したが、普通型あおり、車両運搬車が減少。大型は深あおりが増加、普通型あおりが減少。中型は深あおりが増加、普通型あおりが減少。小型は普通型あおり、車両運搬車が減少。

## ④ バン

- ・ バン型車全体は80,484台(94%)と2年連続の減少。
- ・ サイズ別では大型23,047台(109%)は増加、中型23,957台(89%)、小型・軽33,480台(90%)は減少。
- ・ 車種別ではドライバンが51,077台(96%)、冷蔵・冷凍車が26,535台(92%)とも減少。

## ⑤ トレーラ

- ・ トレーラ全体は9,437台(108%)と7年連続の増加。
- ・ 車種別ではコンテナ2,808台(110%)、バン3,231台(121%)、その他特装系1,250台(104%)は増加したが、平床・低床2,148台(94%)は減少。

## ⑥ 大中型バス

- ・ 大中型バス全体で4,890台(101%)と3年ぶりの増加。
- ・ 車種別では、路線用2,734台(101%)、観光用1,620台(100%)、自家用536台(107%)とすべて増加。

## ⑦ 小型車

- ・ 乗用・小型商用・軽、全体は、2,028,349台(99.0%)と2年ぶりの減少。
- ・ 輸出向けは1,092,504台(103%)と5年連続で増加したものの国内向けは935,845台(94.5%)と3年連続で減少。

## 2019年度 会員生産台数実績

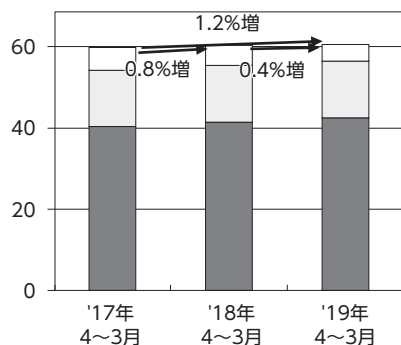
|                   |        |                 | 台 数       | 前年度比%) |
|-------------------|--------|-----------------|-----------|--------|
| 全 体               | 国 内    |                 | 1,138,643 | 95.2   |
|                   | 輸 出    |                 | 1,165,727 | 102.5  |
|                   | 合 計    |                 | 2,304,370 | 98.7   |
| 非量産車<br>※印の<br>車両 | 国 内    |                 | 179,034   | 98.2   |
|                   | 輸 出    |                 | 4,215     | 82.7   |
|                   | 合 計    |                 | 183,249   | 97.7   |
| 特装車<br>※          | 国 内    | 輸送系車両           | 42,589    | 102.5  |
|                   |        | ダンプ車            | 33,834    | 100.2  |
|                   |        | タンクローリ          | 2,754     | 105.1  |
|                   |        | トラックミキサ車        | 2,230     | 112.2  |
|                   |        | 粉粒体運搬車          | 839       | 103.7  |
|                   |        | 脱着コンテナ車         | 2,932     | 122.6  |
|                   |        | 作業系・その他車輛       | 14,069    | 100.2  |
|                   |        | 消防車             | 1,129     | 98.6   |
|                   |        | コンクリートポンプ車      | 277       | 105.3  |
|                   |        | 環境衛生車           | 6,851     | 102.8  |
|                   |        | 高所作業車           | 5,029     | 100.2  |
|                   |        | その 他            | 783       | 82.8   |
|                   |        | 国 内             | 56,658    | 101.9  |
|                   |        | 輸 出             | 4,132     | 83.4   |
|                   | 合 計    | 60,790          | 100.4     |        |
| 特種車<br>※          | 国 内    | 量産系             | 8,281     | 100.7  |
|                   |        | 非量産系            | 3,721     | 122.4  |
|                   |        | 医療防疫用           | 181       | 84.2   |
|                   |        | 作業・工作用          | 541       | 102.3  |
|                   |        | サービス用           | 513       | 113.7  |
|                   |        | その 他            | 2,486     | 134.7  |
|                   | 国 内    | 12,002          | 106.6     |        |
|                   | 輸 出    | 83              | 58.5      |        |
|                   | 合 計    | 12,085          | 106.0     |        |
| 平ボデー<br>トラック      | 国 内    | 標準型(シャシメーカー標準車) | 14,802    | 100.4  |
|                   |        | ※ 大 型           | 5,647     | 102.0  |
|                   |        | ※ 中 型           | 5,084     | 92.1   |
|                   |        | ※ 小型・軽          | 4,832     | 85.9   |
|                   |        | ※ 小 計           | 15,563    | 93.3   |
| 合 計               | 30,365 | 96.7            |           |        |
| バン<br>※           | 国 内    | 大 型             | 23,047    | 108.9  |
|                   |        | ドライバン           | 19,116    | 112.2  |
|                   |        | 冷蔵・冷凍車          | 3,894     | 95.4   |
|                   |        | その 他            | 37        | 97.4   |
|                   |        | 中 型             | 23,957    | 89.2   |
|                   |        | ドライバン           | 13,533    | 86.2   |
|                   |        | 冷蔵・冷凍車          | 9,223     | 93.0   |
|                   |        | その他             | 1,201     | 95.8   |
|                   |        | 小型・軽            | 33,480    | 89.9   |
|                   |        | ドライバン           | 18,428    | 89.9   |
|                   |        | 冷蔵・冷凍車          | 13,418    | 90.0   |
|                   |        | その 他            | 1,634     | 89.6   |
|                   |        | 合 計             | 80,484    | 94.4   |
| トレーラ<br>※         | コンテナ   |                 | 2,808     | 109.8  |
|                   | バ ン    |                 | 3,231     | 120.9  |
|                   | 平床・低床  |                 | 2,148     | 93.5   |
|                   | その他特装系 |                 | 1,250     | 103.8  |
|                   | 合 計    |                 | 9,437     | 108.1  |
| バス                | 国 内    | ※ 大・中           | 4,890     | 101.3  |
|                   |        | 路 線             | 2,734     | 100.8  |
|                   |        | 観 光             | 1,620     | 100.6  |
|                   |        | 自家用             | 536       | 106.6  |
|                   |        | その 他            | 8,962     | 98.7   |
|                   | 国 内    | 13,852          | 99.6      |        |
|                   | 輸 出    | 69,008          | 92.6      |        |
|                   | 合 計    | 82,860          | 93.7      |        |
| 乗用<br>小型商用<br>軽   | 国 内    | 935,845         | 94.5      |        |
|                   | 輸 出    | 1,092,504       | 103.2     |        |
|                   | 合 計    | 2,028,349       | 99.0      |        |

注)・トラック運転台及びテールゲート等の装置生産台数は含んでいません。

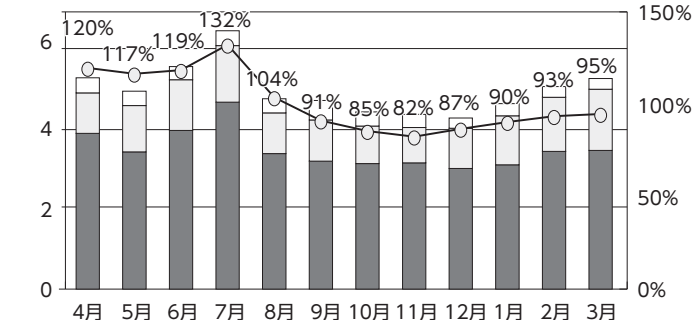
## 特装車

□ 輸出  
 ■ 作業系・その他  
 ■ 輸送系

生産台数(千台)



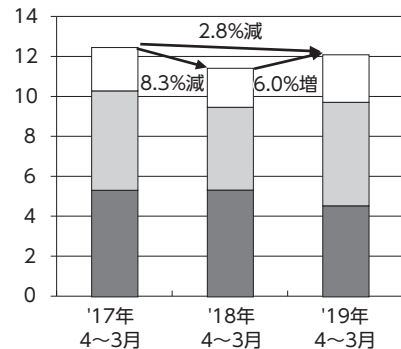
生産台数(千台)



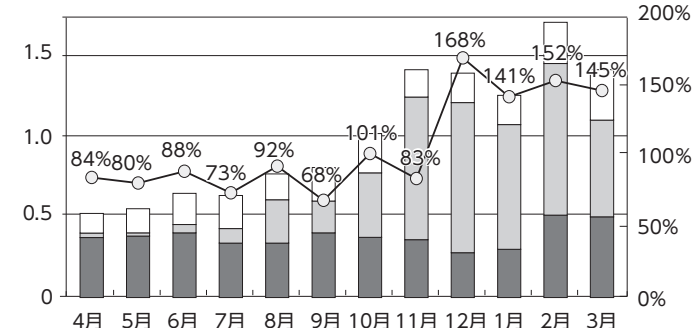
## 特種車

□ その他  
 ■ 緊急用  
 ■ 車いす移動車

生産台数(千台)



生産台数(千台)

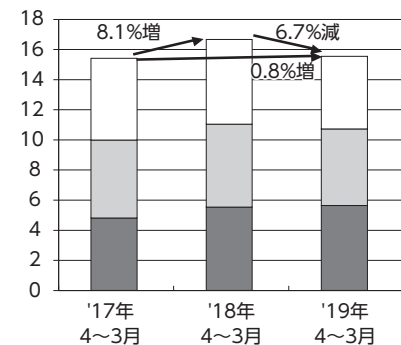


## 平ボデートラック

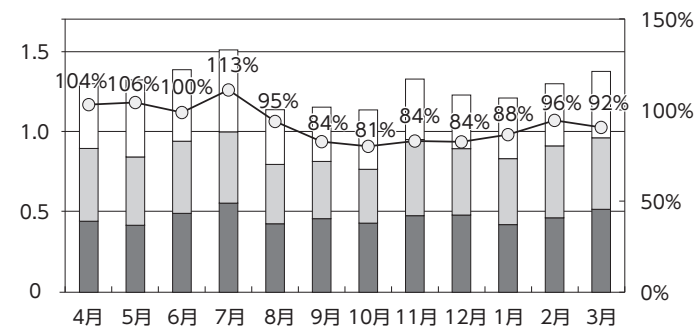
平ボデートラック  
(除 シャシメーカー標準車)

□ 小型・軽  
 ■ 中型  
 ■ 大型

生産台数(千台)



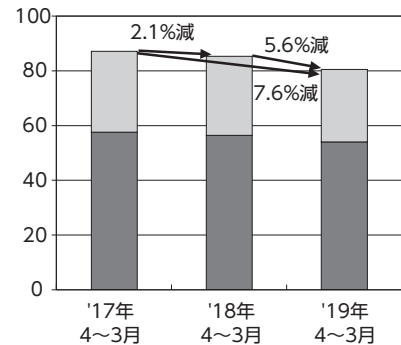
生産台数(千台)



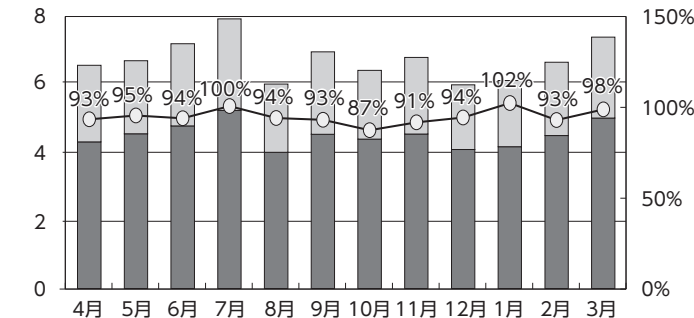
## バン

■ 冷凍・保冷車  
 ■ バン  
(除 冷凍・保冷車)

生産台数(千台)

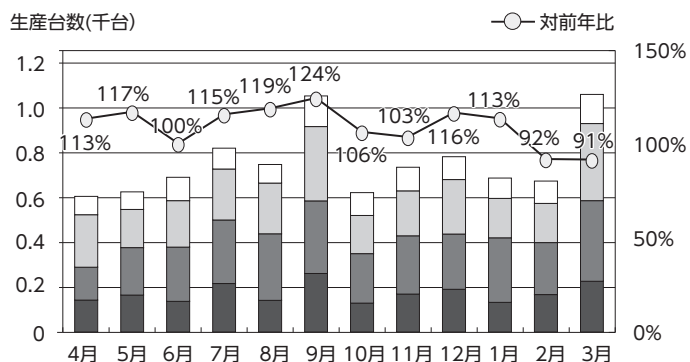
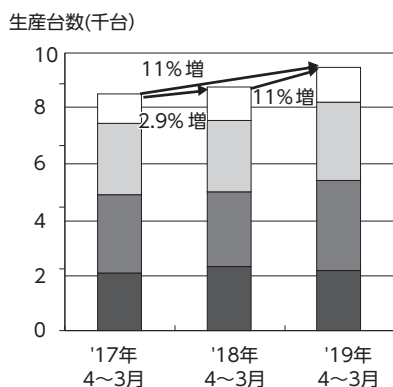


生産台数(千台)



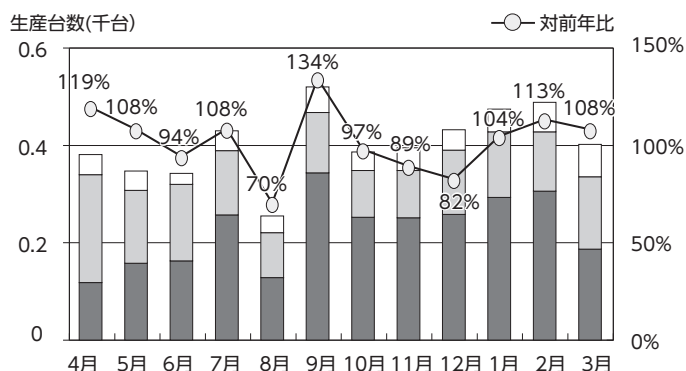
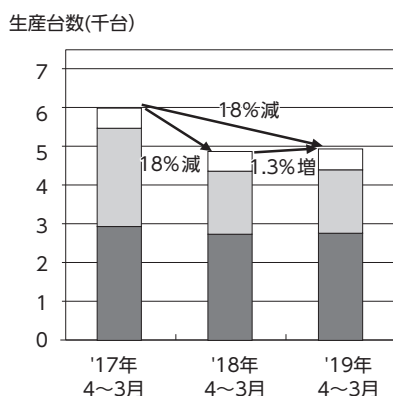
## トレーラ

□ その他特装系  
 ■ コンテナ  
 ■ バン  
 ■ 平床・低床



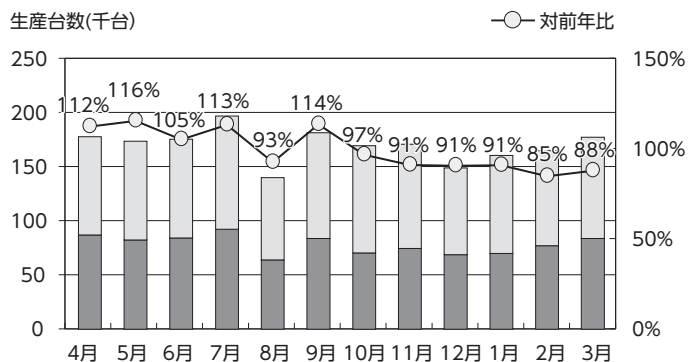
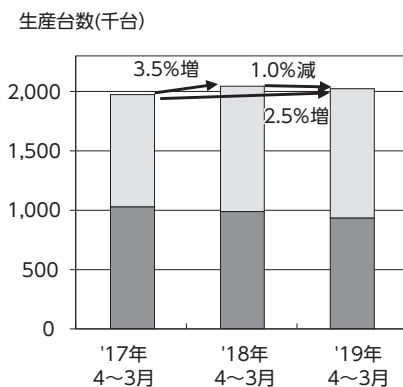
## 大中型バス

□ 自家用  
 ■ 観光  
 ■ 路線



## 小型車 (委託生産の乗・商用車)

■ 輸出  
 ■ 国内



## 車体工業会会員生産台数の公表について

昨今の急激な景気変動に伴う業界全体の状況をいち早く社会全体へ公表するために、生産台数データを当会ホームページに公開しておりますので、下記サイトをご覧ください。

<http://www.jabia.or.jp/data/index.php>





## 編集後記

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)でお亡くなりになられた方のご冥福をお祈り申し上げるとともに、治療を受けられておられる皆様、療養されておられる皆様の早期のご回復をご祈念申し上げます。医療従事者の皆様の懸命な取り組み、様々な場面でご対応、ご支援いただいております多くの皆様、そして社会生活を維持するため日夜取り組んでおられる皆様に心から感謝申し上げます。

東京オリンピック・パラリンピックが延期され、スポーツに限らず各種イベントの延期、中止が発表された。これまで目標を立て、ただ一つの瞬間に向けトレーニングや稽古を積み重ね取り組んでこられた皆様、また、そうした方を支えてこられた皆様のお気持ちは察するに余りある。

私は上手く利用できないが、webを活用し「密」になることなく取り組める料理、音楽、エクササイズなど様々な「こと」が社会に受け入れられつつある。一方、ひと同士が接することが当たり前の世の中でリアルな世界に感動を覚えることも我々にとっては必要である。

社会環境は常に変化しており変化に対応できるのが人間である。対応策は人それぞれで様々だが、リアルな世界を忘れることなく、常にお互いを認め合い、尊敬し合うことをこれからもずっと持ち続けることが大事だと思う。これからも我々の働くクルマはそうした変化に対応すべく取り組んでいく。(吉田)

表紙写真について

特装部会 (株)城南ホールディングス製  
レッカー車

「FALKOM FAW-18000」

レッカー車は、通常の貨物車と比べ使用年数が長く、過酷な環境で使用されることも多いため、塩害によるボデーの腐食対策が必要となります。写真は北欧のFALKOM社の装置装着車で、高耐食性鋼板のスーパーダイマ®K27\*をボデーの98%以上に使用し、レッカー装置も亜鉛メッキ加工を施すことにより非常に塩害に強い車両となっています。

\*スーパーダイマ®は日本製鉄(株)の登録商標です。



## 広報委員長交代のお知らせ



### 退任挨拶

永田 雅久氏  
トヨタ自動車東日本(株)専務取締役

1年間、広報委員長を務めさせていただきました。在任中は、パンフレット及びホームページのリニューアル、車体NEWS新企画「いどばた会議」の作成にあたり、広報委員の皆様にご協力いただき大変感謝しております。

今後は、宮内新委員長のもと、広報活動を更によいものにしていただくことを期待しております。



### 新委員長挨拶

宮内 一公氏  
トヨタ自動車東日本(株)取締役社長

この度、永田雅久氏に代わり、新たに広報委員長に就任いたしました。業界内外にタイムリーに的確な情報を発信するとともに、ホームページ、車体NEWSの更なる充実を図り、厳しい環境下ではありますが、日本を盛り上げていくように取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 新広報委員



南 義明氏 日本トレクス(株) 営業本部 経営企画部 経営企画課 主任 (トレーラ部会)  
業界内外に的確な情報をお伝えしたいと考えております。  
どうぞよろしくお願いいたします。

この会報「車体NEWS」は、主として自動車車体にかかわる法令改正等の動きを情報としてとりまとめ、春、夏、秋、冬の4回、季刊発行により関係方面の方々に毎回およそ1,700部を送付させていただいております。送付先は当工業会会員事業所他全国の大型車等の自動車販社、各都道府県のバス、トラック協会、バス、トラックの大手ユーザー、全国の経済産業局、運輸局、運輸支局、自動車技術総合機構、日本自動車車体整備協同組合連合会、軽自動車検査協会及び自動車関係団体となっております。

### 広告掲載会社

日産車体株式会社……………表2  
イサム塗料株式会社……………32  
スリーエム ジャパン株式会社……………表3  
株式会社ワイズマン……………表4

## 車体NEWS SUMMER 2020 夏

2020年6月15日発行

発行所 一般社団法人 日本自動車車体工業会  
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30

TEL.03-3578-1681 FAX.03-3578-1684

発行人 吉田 量年

# 美しさと安全性の両立

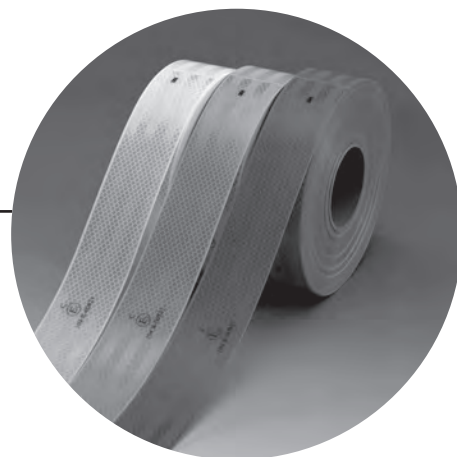
Beauty & Safety スリーエムからの提案です。

夜間や薄暮に多発するトラックなど大型車両の事故。車両の視認性低下が原因のひとつとなっています。夜間の事故防止には再帰反射材による車両マーキング(線状再帰反射材、輪郭再帰反射材、特徴等表示再帰反射材)が不可欠です。その効果は様々な研究報告により明らかになっています。

わが国では「道路運送車両の保安基準」でその取付要件が規定されました。すでに欧米では多くの国々で取付要件が規定されており、義務化された国もあります。スリーエムではこの基準に適合した(※Eマーク付)3M<sup>TM</sup>ダイヤモンドグレード<sup>TM</sup>コンスピキュイティ反射シートと3M<sup>TM</sup>反射シート680Eシリーズを提供しています。

また、スリーエムでは従来より車体のボデーをPR媒体として活用するフリートマーキングシステムの概念を提案し、スコッチカル<sup>TM</sup>フィルム、コントロールタック<sup>TM</sup>プラスフィルムおよびグラフィックスを提供してきました。トラック輸送の有効性、重要性が今後さらに見直される傾向にあります。

今こそ安全性とPR効果がキーワードの車両マーキングとフリートマーキングの採用を検討する時期です。



3M<sup>TM</sup>ダイヤモンドグレード<sup>TM</sup>コンスピキュイティ反射シート

3M<sup>TM</sup>反射シート680Eシリーズ

スコッチカル<sup>TM</sup>フィルム

コントロールタック<sup>TM</sup>プラスフィルム

## 3M<sup>TM</sup>

### ダイヤモンドグレード<sup>TM</sup>コンスピキュイティ反射シート

入射光を光源方向にまっすぐ戻す、再帰反射効果を備えたプリズムレンズ型反射シートです。ヘッドライトの光などで明るく輝き、自車の存在を相手に強くアピールします。

#### ■おもな特徴

1. 従来品に比べ、反射効果が大幅にアップしています。
2. 広角性にすぐれ、カーブ時の見やすさも十分に確保できます。
3. 取り扱いが簡単です。裏面の透明フィルムをはがすだけで、多くの車体に直接貼ることができます。
4. 耐久期間は約7年です。(当社ガイドライン通りに貼付された場合)。

## 事故減少に対するコンスピキュイティ反射シートの有効性に関わる研究報告

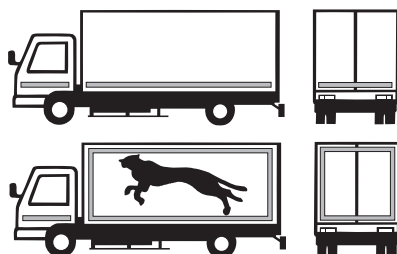
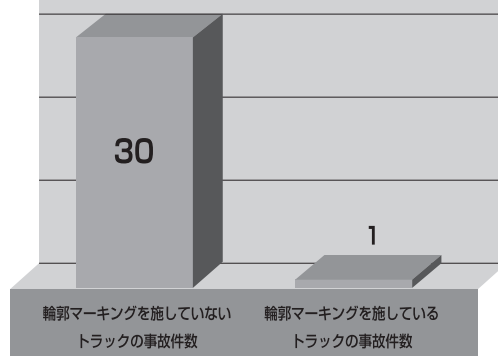
### ■ヨーロッパにおける研究報告

- 夜間や薄暮におけるトラックの側面・後面への衝突事故の約40%が“みられやすさ”(コンスピキュイティ)不足により発生している。
- 再帰反射材の輪郭マーキングを施したトラックの事故件数は、施していないトラックの事故件数の約1/30だった。

### ■米国における研究報告

- 再帰反射材による車両マーキングは重量トレーラーの側面・後面への衝突事故を約30%減少させた。特に夜間では約40%減少させた。

#### ■事故件数対比



※Eマークとは:国連の車両等の相互承認協定規則(ECE)R104の要件に適合した製品に付記することができるマーク。このマーク入りの製品は「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示、別添105」に定める技術基準に適合している製品でもあります。



スリーエム ジャパン株式会社  
トランスポーテーション セーフティ事業部

本社 〒141-8684 東京都港区北品川6丁目7番29号  
電話 03-6409-3388  
URL <http://www.mmm.co.jp>

3M

生産物賠償責任保険

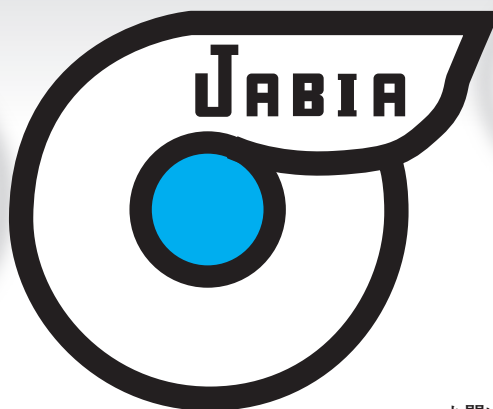
# 日本自動車車体工業会 団体PL保険制度

自動車メーカーだけではなく、車体メーカー、部品メーカーも責任を問われる時代です。

随時加入申込受付中

車体工業会会員の  
皆さまのための  
専用の保険制度。

スケールメリットを  
生かした割安な  
保険料。



PL事故を  
幅広く補償。

貴社のPL対策を  
サポートします。

## 制度の趣旨

- (一社)日本自動車車体工業会の会員の皆さまのためのPL保険制度です。
- PL事故および架装等が原因で生じた賠償事故の損害に対応します。  
車体工業会のスケールメリットを活かした制度で多くの会員の皆さまにご利用いただいております。
- この広告は概要を説明したものです。詳しい内容については、取扱代理店または損保ジャパン日本興亜営業店までお問い合わせください。

お問い合わせ先:

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1  
損害保険ジャパン日本興亜株式会社 営業開発部第一課  
TEL. 03-3349-3322 FAX. 03-6388-0155  
取扱代理店:  
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3丁目11番11号  
東日本橋Y'sビル7F 株式会社ワイズマン 東京支店  
TEL. 03-5623-6455 FAX. 03-5623-6488



損害保険ジャパン日本興亜株式会社

SJNK18-09121 2018/10/22



SOMPO  
ホールディングス

保険の先へ、挑む。

損保ジャパン日本興亜

## 保険の先へ、挑む。

変化の時代にも、揺らぐことのない確かな明日をお届けしたい。その想いをカタチにするために、私たちは進化します。お客さまの「安心・安全・健康」な暮らしをひとつなぎで支えるグループへ。保険の先へ、挑む。

日本の「損保」から、世界で伍していく「SOMPO」へ。

損保ジャパン日本興亜はSOMPOホールディングスの一員です。

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

営業開発部 第一課  
〒160-8338 東京都新宿区西新宿 1-26-1  
Tel:03-3349-3322 <https://www.sjnk.co.jp/>